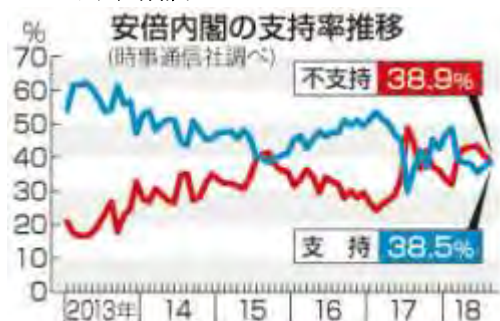


2018年8月10～12日

時事世論調査、翁長さん追悼沖縄県民大会、呼応の集会、
翁長さん通夜、米朝・南北・日朝、自民党総裁選、国民
民主党、戦争の証言・記録

安倍内閣支持微増38.5%＝6カ月連続で不支持を下回
る一時世論調査



時事通信が3～6日に実施した8月の世論調査で、安倍内閣の支持率は前月比1.5ポイント増の38.5%、不
支持率は同2.0ポイント減の38.9%となった。安倍
晋三首相は西日本豪雨のさなかに自民党議員との宴会「赤
坂自民亭」に出席して批判を受けた。その後、矢継ぎ早に
対策を打ち出して支持率は前月に続き改善したものの、6
カ月連続で不支持を下回った。

一方、災害対応を一元的に担う組織として自民党の石破
茂元幹事長が主張する「防災省」の創設について尋ねたところ、「賛成」が72.3%で「反対」の14.0%を大きく上回った。

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移
設への賛否を聞いたところ、「反対」34.1%、「賛成」
28.5%だった。「どちらとも言えない・分からない」は
37.4%だった。翁長雄志沖縄県知事の死去により9月
下旬にも実施される知事選では、移設の是非が最大の争点
になる見通しだ。

内閣を支持する理由（複数回答）は、「他に適当な人がい
ない」18.5%、「リーダーシップがある」10.1%、
「首相を信頼する」8.6%の順。一方、支持しない理由
（同）は、「首相を信頼できない」22.4%、「期待が持
てない」17.4%、「政策が駄目」10.7%などと続い
た。

政党支持率の推移		8月	7月	6月	8月	7月	6月
自 民 党	27.1%	25.4	25.8	日本維新の会	0.9%	1.1	1.1
立憲民主党	4.6	4.7	5.2	自由党	0.2	0.0	0.1
国民民主党	0.5	0.6	0.6	希望の党	0.0	0.2	0.1
公 明 党	3.3	3.7	3.8	社 民 党	0.3	1.0	0.4
共 産 党	2.3	2.1	2.0	支持なし	58.9	58.2	58.9

政党支持率は、自民党が前月比1.7ポイント増の27.1%、立憲民主党は0.1ポイント減の4.6%。以下、

公明党3.3%、共産党2.3%、日本維新の会0.9%、国民民主党0.5%など。支持政党なしは0.7ポイント増えて58.9%だった。

調査は西日本豪雨で被害を受けた広島県の一部を除く全
国18歳以上の男女1991人を対象に個別面接方式で実
施。有効回収率は61.8%だった。（時事通信
2018/08/10-15:09）

党首討論見直しが6割＝夜開催、定例化に理解一時世論
調査

時事通信の8月の世論調査で、首相と野党党首による党
首討論の在り方について聞いたところ、「制度を見直した上
で存続すべきだ」が57.1%で最も多く、「現行制度のま
ま続けるべきだ」20.2%、「廃止すべきだ」8.1%を
上回った。

制度を見直すべきだと答えた人に対し、超党派議員連盟
などによる主な提言の中で当てはまるものを複数回答で尋
ねたところ、「夜間に開催し、多くの人がテレビなどで視聴
できるようにする」40.2%、「2週間に1回程度、定例
で開催する」35.3%、「45分間の討論時間を2時間程
度に拡大する」26.5%の順だった。

一方、首相や閣僚の国会への出席回数や時間を減らすこ
とについて賛否を聞いたところ、「反対」34.9%、「賛
成」34.0%と拮抗（きっこう）。「どちらとも言えない・
分からない」も31.1%あった。

調査は3～6日、西日本豪雨で被害を受けた広島県の一
部を除く全国18歳以上の男女1991人を対象に個別面
接方式で実施。有効回収率は61.8%。（時事通信
2018/08/10-15:08）

県民大会で故翁長氏悼む＝副知事「承認撤回、毅然と判断」
－沖縄



米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に反対する「県民大
会」で、亡くなった翁長雄志知事に黙とうをささげる参加
者＝11日午前、那覇市

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移
設に反対し、政府が17日にも予定する土砂投入の阻止を
目指す「県民大会」が11日、那覇市で開かれた。8日に

亡くなった翁長雄志知事に黙とうをささげるなど、主催者発表で7万人の参加者が早すぎる死を惜しんだ。



米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に反対する「県民大会」であいさつする同県の謝花喜一郎副知事＝11日午前、那覇市

翁長氏の職務代理を務める謝花喜一郎副知事は、前知事の埋め立て承認撤回に関し、「辺野古に新基地は造らせない」という翁長氏の思いをしっかりと受け止め、毅然（きぜん）と判断する」と表明した。撤回の時期は明言しなかった。

翁長氏の次男で那覇市議の雄治さんも登壇、病室でも基地問題に関する資料を読んでいたと生前の姿を紹介。「父に辺野古新基地が止められたと報告ができるよう頑張ろう」と呼び掛けた。

大会は移設阻止を掲げる「オール沖縄会議」が主催。土砂投入の撤回や、移設計画の断念を日米両政府に求める決議を行った。（時事通信 2018/08/11-16:35）

辺野古移設、県民大会で断念要求 翁長知事悼む声相次ぐ
共同通信 2018/8/11 19:09/11 19:10updated



米軍普天間飛行場の沖縄県名護市辺野古への移設に反対する「県民大会」で、亡くなった翁長雄志知事への感謝のメッセージを掲げる参加者＝11日午前、那覇市の奥武山公園

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対する「県民大会」が11日、那覇市内で開かれた。主催者発表で約7万人が参加し、辺野古での新基地建設の断念や、普天間飛行場の即時閉鎖と撤去を要求する決議を

採択。参加者からは、8日死去した翁長雄志知事を悼む発言が相次いだ。移設反対を訴える動きは各地に広がり、北海道や大阪、福岡などでも集会やデモ行進があった。

謝花喜一郎副知事（61）は「新基地は造らせない」という翁長氏の思いをしっかりと受け止め、毅然として判断する」と述べ、翁長氏が打ち出した辺野古沿岸部の埋め立て承認撤回の方針を継承する意向を表明した。



米軍普天間飛行場の沖縄県名護市辺野古移設に反対する「県民大会」で、メッセージを掲げる参加者たち＝11日午後、那覇市の奥武山公園

雨の沖縄県民大会「知事の遺志継ぐ」 静かに怒り込めて
朝日新聞デジタル 2018年8月11日 21時09分



「辺野古新基地NO!」のメッセージボードを一斉に掲げる参加者たち＝2018年8月11日午前11時18分、那覇市の奥武山陸上競技場、小宮路勝撮影



時折激しい雨が降る中、多くの人々が会場を埋めた。11日にあった米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設に反対する県民大会。直前に急逝した翁長雄志（おながたけし）知事への追悼ムードに包まれ、登壇者も参加者も、辺野古移設に反対し続けた「知事の遺志を継ぐ」と口をそろえた。

「自分たちで声を上げることが必要だと思った」

参加者たちは那覇市の奥武山（おうのやま）陸上競技場に、辺野古の海をイメージするブルーの服や帽子を身につけて集まった。翁長氏を悼んで黙禱（もくとう）しながら、肩を震わせたり、涙をぬぐったりする人もいた。

あいさつに立った翁長氏の次男で那覇市議の雄治（たけはる）さん（31）は「残念な結果となりました」と言葉を詰まらせ、「父は生前『沖縄は試練の連続だが、ウチナーンチュ（沖縄の人）が心をつ一つにして闘うとき、想像するよりも大きな力になる』と何度も言っていた。辺野古新基地建設が止められたと父に報告できるよう頑張ろう」と呼びかけた。

名護市の学童指導員比嘉陽子さん（40）は娘の中学2年陽華（ひなか）さん（14）、小学5年仁紅（にこ）さん（10）と初めて県民大会に参加した。「私たちの気持ちを代弁してくれた翁長知事が亡くなり、自分たちで声を上げることが必要だと思った」

美しい辺野古の自然は、一度奪われれば元には戻せない。一方で2月の名護市長選では、移設を事実上容認する候補が当選した。周囲には「反対しても意味がない」と無力感を語る人もいる。陽華さんにも「別にいいじゃん」と語る友人がいるという。だが、会場に来て「こんなに声を上げる人がいると思わなかった」と驚いた。「自然を守っていくため、こういう動きが広がってほしい」

読谷村（よみたんそん）の福祉相談員大城貴子さん（58）は、翁長氏への弔意を示すため黒いシャツとズボン姿で参加した。「翁長知事は最後の力を振り絞って理不尽を訴え続けた。遺志を無駄にしないといけない」と話した。

地元出版社編集長の新城（しんじょう）和博さん（55）

は、少女暴行事件に抗議した1995年の県民大会以降、様々な大会に参加してきた。今回は杖をついた高齢の男性や、1本の傘で雨をしのぐ親子連れ、黙禱の時に泣く女性など、強い意思を感じさせる参加者の姿が印象的だったという。「今回は特にしんみりとして、整然と行われたと感じた。沖縄の静かな怒りが込められた大会として語り継がれると思う」と話した。

米軍ヘリの窓落下事故「魔法が解けた」

県民大会には、普天間飛行場に隣接し、昨年12月に米軍ヘリの窓落下事故があった普天間第二小学校に春まで勤めていた教員の姿もあった。

2年生の担任だった仲本喜美子さん（62）。あの日午前10時すぎ、「運動場に何か落ちた！」という声で職員室から外に出た。体育の授業中だった2年生と4年生計約60人が、叫びながら校舎に逃げ込んだ。運動場のほぼ中央に落ちた窓は重さ約8キロ。「まさか」としか言葉が出なかった。

宜野湾市普天間生まれ。大学卒業後に教員となり、普天間飛行場にオスプレイが配備された翌年の2013年4月に普天間第二小に赴任した。校舎からフェンス越しに銃を持ち行進する軍人が見え、上空を米軍機が通過する。「異常だ」と感じつつ、それが日常になっていた。

だが、事故によって「魔法が解けた」。事故後に児童が書いた作文を読んだ。「ぼくはあんぜんで、けがのない小学校がいいです」「どんな国でもこんなあぶないことはおきないでほしい」……。いてもたってもいられなくなり、地元紙に内容を紹介する手記を投稿した。「目の前で起きたことと児童の気持ちを、きちんと伝えなければいけない」と思っていたのだ。

別の小学校に転勤後も、普天間第二小の保護者らと定期的に会い、どうすれば子どもたちが安全でいられるか考え続けている。9日には普天間飛行場の移設工事が進む名護市辺野古を見に行行った。埋め立て予定地のそばにも、家々や学校があった。

「子どもたちに基地を当たり前の存在と思わせてはいけない。これ以上沖縄に基地を造るのはやめて」。そんな思いでこの日、「辺野古新基地NO!」のメッセージボードを掲げた。

辺野古移設、反対の県民大会 翁長知事を追悼
朝日新聞デジタル 2018年8月11日 15時53分



「辺野古新基地NO!」のメッセージボードを一斉に掲げる参加者たち＝2018年8月11日午後0時3分、那覇市の奥武山陸上競技場、伊東聖撮影



米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設計画で名護

市辺野古の海に土砂が投入されるのを前に、建設断念を求める県民大会が11日、那覇市の奥武山（おうのやま）陸上競技場であった。台風接近で雨が降るなか、主催者発表で7万人が集まり、急逝した翁長雄志（おながたけし）知事を追悼するとともに、辺野古に新たな基地は造らせないという意思を改めて示した。

初めに参加者全員が、8日に亡くなった翁長氏を悼んで黙禱（もくとう）した。壇上には、翁長氏がかぶる予定だった、大会テーマカラーのブルーの帽子が置かれた。知事の職務代理者の謝花（じゃはな）喜一郎副知事はあいさつで、国が17日にも土砂投入を始める予定で、県が埋め立て承認の撤回の手続きを進めていることに触れ「知事の強い思いを受け止め、我々も毅然（きぜん）として判断していく」と述べた。

大会は、翁長氏を支えてきた社民、共産などの政党、市民団体などをつくるオール沖縄会議の主催。大会に合わせ、東京や大阪、名古屋でも集会やデモ活動があった。

沖縄県民大会 辺野古移設断念求め7万人 翁長知事を追悼

毎日新聞 2018年8月11日 19時22分(最終更新 8月11日 20時14分)



県民大会で翁長知事がかぶるはずだった帽子（前列左）を見つめる謝花喜一郎副知事（同右）＝那覇市で2018年8月11日午前11時9分、野田武撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画を巡り、政府が17日にも予定する埋め立て予定海域への土砂投入に反対する沖縄県民大会が11日、那覇市の奥武山（おうのやま）陸上競技場であった。主催者発表で約7万人が参加。8日に腓（すい）がんで亡くなった翁長雄志（おなが・たけし）知事を追悼するとともに、「県民の民意を踏みにじり、環境破壊につながる違法工事だ」として政府に移設断念などを求める決議を採択した。

大会の冒頭、翁長氏を悼んで参加者全員で黙とうした。知事の職務代理者の謝花（じゃはな）喜一郎副知事は、辺野古沿岸部の埋め立て承認の撤回について、『「辺野古に新基地は造らせない」という翁長知事の強く熱い思いを受け止め、毅然（きぜん）と判断する」と述べ、土砂投入前の正式撤回を目指す考えを示した。

翁長氏の次男で那覇市議の雄治（たけはる）さん（31）は「父からは生前、『ウチナーンチュ（沖縄の人）が心を一つに闘えば大きな力になる』と何度も何度も言われてきた。『辺野古新基地が止められた』と報告できるように頑張らましよう」と呼び掛けた。

大会は、辺野古移設に反対する翁長氏を支えてきた政党や市民団体などでつくる「オール沖縄会議」が主催。闘病中だった翁長氏も出席の意向を示していた。【遠藤孝康】

普天間飛行場 県内移設反対 沖縄県民大会に7万人

毎日新聞 2018年8月11日 14時11分(最終更新 8月11日 16時03分)



「辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」で、団結ガンバローと叫ぶ参加者たち＝那覇市で2018年8月11日午後0時5分、野田武撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画を巡り、政府が17日にも予定している埋め立て予定海域への土砂投入に反対する沖縄県民大会が11日、那覇市の奥武山陸上競技場であり、主催者発表で約7万人が参加した。膝（すい）がんのため8日に亡くなった翁長雄志知事の代理として、謝花喜一郎副知事があいさつ。翁長知事が表明していた、前知事による埋め立て承認の撤回について「辺野古に新基地は造らせないという翁長知事の強く熱い思いを受け止め、毅然（きぜん）と判断する」と述べた。

大会では「直ちに国は埋め立て工事を中止し、新基地建設計画を断念すべきである」とする決議を採択した。

沖縄県民大会、辺野古移設反対訴え 翁長知事の死悼む

日経新聞 2018/8/11 11:59

米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設に反対する県民大会（主催者発表で7万人参加）が11日午前、那覇市内の陸上競技場で開かれた。大会冒頭、8日に亡くなった翁長雄志知事を悼み、1分間の黙とうがささげられた。参加者らは「知事の遺志を継ぎ、移設阻止を諦めない」と訴えた。

大会は辺野古移設に反対する政党や団体でつくる「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」の主催。台風14号が近づき時折激しく雨が降るなか、会場は辺野古の海をイメージした青色のシャツなどを着た参加者で埋め尽くされ

た。壇上の席には翁長知事が大会に出席するために用意したブルーの帽子が置かれた。



沖縄県民大会でメッセージボードを掲げる参加者（11日、那覇市）

参加者一同、黙とうをささげた後、翁長知事の次男で那覇市議の雄治氏が、翁長知事が生前に残したメッセージとして『「ウチナーンチュ（沖縄の人）が心を一つにして戦う時には、想像よりもはるかに大きな力になる』と何度も何度も聞かされてきた」と伝え、移設阻止を呼びかけた。

職務代理の謝花喜一郎副知事は辺野古埋め立て承認の撤回について「翁長知事の強く熱い思いを受け止め、毅然として判断していく」と述べた。撤回は7月末に翁長氏が表明した。県は職務代理の副知事でも撤回は可能との立場だ。

家族4人で西原町から参加した中学2年の長浜真玄さん（13）は「1人でも反対の声が増えればと思い参加した。反対している声もある中で、無理やり基地をつくるのは嫌。これ以上基地を増やしたくない」と話した。

母とともに辺野古を訪れたこともあるという那覇市の中学3年の前里咲和さん（14）は「きれいな海を壊したくない」と訴え、宜野湾市に住む大学1年の男子学生（18）は「普天間基地をなくすというはずだったのに、ただ移すだけというのはおかしい」と語った。

与那原町に住む80代の主婦は「子供、孫のためにも新しい基地をつくらせない」と強調。「翁長知事も天国で応援している。絶対に諦めない」と力を込めた。

産経新聞 2018.8.11 17:41 更新

【翁長氏死去】埋め立て承認撤回は17日まで？ 知事選後？ 意見割れるオール沖縄



米軍普天間飛行場の移設工事が続く沖縄県名護市辺野古の沿岸部（小型無人機から）

故翁長雄志（おなが・たけし）沖縄県知事の職務を代行する謝花（じゃはな）喜一郎副知事は11日、那覇市内で開かれた米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対する集会で、埋め立て承認撤回について「翁長知事の強く熱い思いを受け止め毅然と判断する」と述べた。政府は17日以降に土砂を投入する方針だが、翁長氏を支えた「オール沖縄」内では17日までの撤回をめぐり意見が割れている。

「しっかりやれよ」

集会後、社民党の照屋寛徳（てるや・かんとく）衆院議員は謝花氏にこう声をかけた。照屋氏は「基本的には17日までの撤回」を求めており、翁長氏が死去した8日も謝花氏に「職務代理者の権限で埋め立て承認を撤回するのは問題ない」と迫っていた。

謝花氏とともに翁長氏の後継候補として名前が挙がる那覇市の城間（しろま）幹子市長も集会で「承認撤回に向けてあとひと息。無念でならなかったと思う。その遺志を引き継いでいきたい」と早期撤回論をにじませた。

これに対し、翁長派の県議会会派幹部は「（9月に見込まれる）知事選まで撤回しなくていい」と語る。判断を知事選後にすれば、選挙戦で撤回の是非を争点にできるためだ。こうした意見に配慮してか、謝花氏は11日も撤回時期を明言しなかった。撤回先送り論の背景には、政府が知事選前の土砂投入を見送るとの観測がある。だが、防衛省幹部は「粛々と埋め立てを行うべきだ」という考えもある」と明かす。

そもそも県庁内部には撤回に反対する声もある。防衛省の反論を聞く9日の聴聞では、撤回に反対する県土木建築部幹部が口を開かず、知事公室幹部が説明に追われたという。出席者は「防衛省の質問に答えられず、見ていてかわいそうだった」と振り返る。

ただ、政府が予定通り土砂投入を行えば、辺野古移設に反対する活動家が反発するのは必至だ。活動家らは県庁に座り込み、なかなか撤回に踏み切らない翁長氏への不信を口にしてきた。土砂投入をきっかけにオール沖縄が空中分解する可能性もある。（杉本康士、田村龍彦）

「基地建設止める」 沖縄県民大会 断念要求決議

東京新聞 2018年8月12日 朝刊

◆辺野古阻止貫いた翁長知事と共に

米軍普天間（ふてんま）飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の名護市辺野古（へのこ）移設に反対する「県民大会」が十一日、那覇市内で開かれた。主催者発表で約七万人が参加し、辺野古での新基地建設を断念するよう日米両政府に要求する決議を採択した。登壇者も参加者も、反対運動の象徴的存在で八日に死去した翁長雄志（おながたけし）知事に対する思いを語り、会場は追悼ムードに包まれた。（篠ヶ瀬祐司、写真も）

謝花喜一郎（じゃはなきいちろう）副知事はあいさつで「翁長氏が命を削って建設反対を貫こうとした姿勢は後世まで語り継がれる」と弔意を表明。翁長氏が打ち出した辺野古沿岸部の埋め立て承認撤回方針を継承する考えを示した。

辺野古移設に反対する「県民大会」で、壇上の前列中央の席に置かれた故翁長知事の帽子。右は謝花副知事＝11日、那覇市で



翁長氏の次男で那覇市議の雄治（たけはる）氏（31）は、療養中の様子について「どうすれば基地建設を止められるのか、病室のベッドの上で資料を読みあさり、頑張っていた」と紹介した。

大会は、台風14号の接近で断続的に激しい雨が降る中で行われた。大会テーマカラーの青色のシャツ姿に交じり、弔意を表す黒い服や喪章を着けた人が目立った。大会の冒頭、参加者全員で黙とうをささげた。

壇上の最前列中央のいすには「辺野古ブルー」の帽子が置かれた。翁長氏がこの日、かぶる予定だった。「知事は今、私たちとここにいます」。司会者の声に拍手と指笛が響いた。

辺野古移設の賛否を問う県民投票を求めて署名集めをしたグループの代表、元山仁士郎さん（26）は開会前のあいさつで「月末に十万筆の署名を知事に手渡す予定だったが、できなくなってしまった。残念でならない」と話した。

8・11県民大会

琉球新報 2018年8月12日 03:44



米軍普天間飛行場の県内移設に伴う名護市辺野古の埋め立て阻止を訴える「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」（辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議主催）が11日、那覇市の奥武山公園陸上競技場で開かれました。台風14号の接近に伴う雨が降りしきる悪天候にもかかわらず、主催者発表で7万人が集まりました。沖縄防衛局が17日にも開始する土砂投入計画の断念を要求する大会決議を採択したほか、8日に急逝した翁長雄志知事を悼み、新基地建設阻止に懸けた思いを受け継ぐことを確認しました。県民大会の様子を伝える記事をまとめました。

翁長知事が残した言葉「ウチナーンチュが心一つに闘うとき大きな力になる」 土砂投入許さない県民大会
琉球新報 2018年8月11日 11:18



多くの県民が参加した「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」＝11日午前11時すぎ、那覇市の奥武山公園内



米軍普天間飛行場の県内移設に伴う名護市辺野古の埋め立て阻止に向けた「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」（辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議主催）が11日午前、那覇市の奥武山公園内で開かれた。主催者発表で7万人が参加した。

3万人以上の結集を目標とした大会は、8日に急逝した翁長雄志知事を哀悼する思いも重なり、午前10時の開場とともに多くの人々が続々と会場入りした。参加者は「県民は諦めない」など書いたメッセージボードを掲げ、翁長知事が表明した埋め立て承認の撤回を支持する民意を示した。

大会では、沖縄防衛局が辺野古地先への土砂投入を17日にも開始すると県に通知した事態に対し「沖縄県民の民意を踏みにじり、環境破壊につながる違法工事を強行し続けている」として、建設計画の断念を要求する8・11県民大会決議を採択した。

参加者は辺野古の海と空をイメージした大会カラーの青色とともに、喪章や黒いリボンを身に着けて翁長雄志氏への追悼の意を示した。冒頭に1分間の黙とうをささげ、新基地建設阻止の公約を最後まで貫いた翁長知事の意味を受け継ぐ決意を確認した。

翁長知事の息子の翁長雄治那覇市議が登壇し、知事が生前、「沖縄は試練の連続だ。しかし、一度もウチナーンチュとしての誇りを捨てることなく闘い続けてきた。ウチナーンチュが心一つにして闘うときにはおまえが想像するよりもはるかに大きな力になる」と何度も口にしていたところを明かし、「翁長雄志に辺野古新基地建設が止められたと報告できるようにみなさま頑張りましょう」と呼び掛けた。

県知事職務代理者の謝花喜一郎副知事は、翁長知事が入院中も埋め立て承認の撤回を強く決意していたことに触れた上で、「まさに闘いがここからというところで志半ばで病に倒れ、無念だった。この遺志を受け止め、阻止に全力で取り組む」と強調した。さらに撤回については「聴聞の審理が取りまとめられている。県政をお預かりしている我々として辺野古に新基地を造らせないという知事の熱い思いを受け止め、引き続き毅然として判断していく」と決意を示した。

城間幹子那覇市長は翁長知事と高校で同級生だったことを明かした上で「彼の沖縄に対する強い思いをいろいろな形で耳にしてきた。沖縄に対する思いは少しもぶれていない。ウチナーンチュの心の寄り添ったウチナーンチュの心を体現、表現する行動をしていきたい。残念ながら見届けることはできなかったが、私たちにそれが託されている」と力を込めた。その上で「承認撤回に向けて、あと一息手の届きそうなところであって、無念でならなかったと思う。それぞれの立場で遺志を引き継いでいきたいと思う」と話した。

壇上には翁長知事用のいすが用意され、県民大会でかぶる予定だった青色の帽子が置かれた。沖縄県による撤回を後押しする大会決議では「沖縄県民の命と暮らし、沖縄の地方自治と日本の民主主義と平和を守るためこの不条理に全力で抗い続ける」と宣言した。【琉球新報電子版】

翁長知事の遺志継ぐ 「新基地を造らせない」 沖縄で県民大会

沖縄タイムス 2018年8月11日 11:52



沖縄県名護市辺野古の新基地建設に反対するオール沖縄会議は11日午前、「土砂投入を許さない！ ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める県民大会」を那覇市の奥武山陸上競技場で開いた。雨が降る中、市民らは辺野古の海の色を象徴する青色の帽子やタオルなどのほか、8日に脾臓（すいぞう）がんで亡くなった翁長雄志知事への追悼の意を含め、黒い服を身に付け参加。翁長氏の死を悼み、日米両政府へ新基地建設計画の白紙撤回を求めた。主催者発表で7万人の市民が参加した。

翁長氏の次男で那覇市議の雄治氏は、「父は最期の最期までどうしたら辺野古新基地を止められるか、病室のベッドでも資料を読みあさり頑張っていた」と紹介。「沖縄は試練の連続だが、ウチナーンチュが心をつにけして闘うとき、想像よりはるかに大きな力になると何度も何度も言われてきた」と生前の翁長氏の発言を明かした。

知事職務代理者の謝花喜一郎副知事は、入院中も翁長氏が埋め立て承認撤回に強い決意を持っていたことを明かした上で「撤回は聴聞の審理状況を踏まえ、翁長氏の辺野古新基地をつくらせないとの強く熱い思いを受け止め、毅然（きぜん）と判断する」と決意を示した。

玉城愛共同代表が「県民の命と暮らし、沖縄の地方自治と日本の民主主義と平和を守るため、この不条理に対し、全力であらがい続ける」と大会決議を読み上げ、採択された。宛先は首相や防衛相で、土砂投入の撤回、オスプレイの配備撤回などを求めている。

壇上の最前列中央には翁長氏の席が用意され、いすの上に翁長氏が大会で着用する予定だった帽子が置かれた。大会冒頭、参加者全員で翁長氏の冥福を祈り、黙とうした。開催地の城間幹子市長や、政策集団にぬふあぶしや、金秀グループの代表もあいさつした。

県民大会で翁長氏悼む、沖縄 辺野古移設反対訴え 共同通信 2018/8/11 12:11



米軍普天間飛行場の沖縄県名護市辺野古移設に反対する「県民大会」で、亡くなった翁長雄志知事を悼み黙とうする参加者＝11 日午前、那覇市の奥武山公園

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対する「県民大会」が 11 日、那覇市の奥武山公園で開かれた。参加者は大会の冒頭、反対運動の象徴的存在で 8 日に死去した翁長雄志知事を悼んで全員で黙とうをささげ、移設反対を訴えた。

翁長氏の次男で那覇市議の雄治氏（31）は、療養中の翁長氏の様子について「どうすれば基地建設を止められるのか、病室のベッドの上で資料を読みあさり、頑張っていた」と紹介。生前、翁長氏から「沖縄は試練の連続だが、沖縄の人としての誇りを捨てずに闘えば、想像するよりはるかに大きな力になる」と伝えられていたことを明らかにした。

翁長雄志知事最後の言葉（次男・翁長雄治那覇市議あいさつ全文） 8・11 県民大会

琉球新報 2018 年 8 月 11 日 12:49



翁長雄治那覇市議

「辺野古新基地建設断念を求める 8・11 県民大会」で故翁長雄志知事の次男、翁長雄治那覇市議が登壇し「故翁長雄志知事最後の言葉」を述べた。全文は以下の通り。

はいさい、ぐすーよーちゅうがなびら。8・11 県民大会にご参集の県民のみなさま、こんにちは。ただいまご紹介いただきました故翁長雄志の次男、翁長雄治と申します。

県民のみなさま、多くの全国のみなさまに父の体のことでご心配をおかけしました。みなさまのご期待に添えるように最後まで頑張りましたが、残念な結果となりました。申し訳ございませんでした。

最後の最後までどうやったら辺野古新基地建設を止められるのか、一生懸命病室のベッドの上でも資料を読みあさり頑張っておりました。

今日は登壇をさせていただくのか、お願いをしていいのか、寸前まで迷いましたが、おそらくこれが最後の機会になるのではないかと思います、上がらせていただきました。今日は父が生前よく話していたこと、私に話していたこと、みなさまの前で話していたことを改めてお話しさせていただきたいと思います。

沖縄に辺野古に新基地をつくる。どれほどの大義名分があるのでしょうか。そういう説明がしっかりとなされてきたのでしょうか。全国が受け入れないから沖縄に置いておけばいい。今われわれが納得できない、そういうものを将来の子どもたちに残してしまうのでしょうか。県民のみなさま、今一度しっかりとわれわれの思いを形にしましょう。

父は生前、「沖縄は試練の連続だ。しかし、一度もウチナーンチュとしての誇りを捨てることなく闘い続けてきた。ウチナーンチュが心をつなげて闘うときにはおまえが想像するよりもはるかに大きな力になる」と何度も何度も言っていました。現に今回の県民投票の署名も必要署名数の 4 倍以上になる 10 万票を集めることができたのは県民の大きな決意だと思います。

日本全国のみなさま、多くの国民が必要であるというその日米安保、米軍基地。この国土の 0・6% にすぎない沖縄に 70% 以上もあるのはいくらなんでも過重すぎはしませんか。全国的な議論のテーマに挙げていただいて、この問題は沖縄の問題ではなく日本国の問題、課題だと認識して議論してもらいたい。

「国の専権事項だから」と言って今責任を持っているわれわれが何もせずに指をくわえているわけにはいきません。

オール沖縄の大きな潮流は政治家のためにあるのではなく政争の具にするものでもありません。オール沖縄はわれわれウチナーンチュの強い決意です。覚悟です。その民意にわれわれ政治家が突き動かされているのです。

最後までみなさま諦めずに。頑張って見届けることはできませんでしたが、父に翁長雄志に辺野古新基地建設が止められたと報告できるように皆様頑張りましょう。ありがとうございました。

「沖縄が一つになるとき大きな力に」 翁長知事の“最後の言葉”、次男が明かす

沖縄タイムス 2018 年 8 月 11 日 12:17



翁長雄志知事への感謝のメッセージを掲げる大会参加者＝11 日、那覇市・奥武山陸上競技場



故翁長雄志知事が県民大会でかぶるために用意していた帽子が壇上の席に置かれていた

沖縄県名護市辺野古の新基地建設に反対する「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」では、辺野古新基地反対や沖縄の基地負担の軽減を訴え続け、8日に亡くなった翁長雄志知事の次男で那覇市議の雄治氏が、知事の生前の言葉を紹介した。

雄治氏の話は次の通り。

はいさい、ぐすーよー、ちゅうがなびら。県民の皆さま、全国の皆さまには、父の体のことで多大なご心配をお掛けしました。皆さまのご期待に沿えるよう、最後まで頑張りましたが、残念な結果となりました。申し訳ございませんでした。

最後の最後までどうやったら辺野古新基地を止められるのか、一生懸命病室のベッドの上でも資料を読みあさって、頑張っていました。父が生前、私に、そして皆さまに話していたことを、改めて紹介したいと思います。

沖縄に辺野古に新基地を造る、どれほどの大義名分があるのでしょうか。そういう説明がしっかりとなされてきたのでしょうか。全国が受け入れないから沖縄に置いておけばいい。我々が納得のいかないものを、将来の子どもたちの残してしまうのでしょうか。

県民の皆さま、いま一度しっかりと我々の思いを形に致しましょう。父は生前、沖縄は試練の連続だと。しかし、一度もウチナーンチュの誇りを捨てることなく、闘い続けてきた。ウチナーンチュが心を一つに闘う時は、お前が想像するよりもはるかに大きな力になると話していました。

辺野古新基地建設の是非を問う県民投票に向けた署名活動でも10万以上の署名を集めることができたのは、県民の大きな決意だと思います。

日本全国の皆さま、多くの人が必要であるというその日米安保、国土の0.6%にすぎない沖縄に米軍基地の70%以上があるのは、いくらなんでも重過ぎはしませんか。

全国的なテーマに上げていただき、この問題は沖縄の問題ではなく、日本国の問題であると認識し、議論していただきたい。国の専権事項だからといって、いま責任を持つ我々が、次の世代のために何もせずに指をくわえて見ていくわけにはいきません。

オール沖縄という大きな大きな政治潮流は政治家のためにあるわけではなく、政党の具にするものでもございません。オール沖縄は我々ウチナーンチュの強い決意、覚悟です。

この民意に我々政治家が突き動かされているのです。最後まで見届けることはできませんでしたが、翁長雄志に辺野古新基地建設は止まったよ、止められたよという報告ができるよう皆様頑張りましょう。ありがとうございました。

「辺野古埋め立ては自然破壊」 東清二琉球大名譽教授メッセージ全文 8・11県民大会

琉球新報 2018年8月11日 22:14



東清二琉球大名譽教授

沖縄防衛局が新基地建設の環境保全策を議論するために設置した環境監視等委員会の副委員長委員だった東清二琉球大学名誉教授が「辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」に送ったメッセージは次の通り。

「8・11県民大会に寄せて」

私は2014年4月から、沖縄防衛局が設置した環境監視等委員会の副委員長を務めていましたが、今年4月に正式に辞職が認められました。

最初は環境監視等委員会で、ちゃんとした監視ができるかと期待していました。それで、埋め立て区域も含めてウミガメの産卵場所、ジュゴンの食草であるアマモなど海藻の分布と密度、ジュゴンが何頭いるのか、どれくらいの頻度で来ているのか、などの調査を依頼したのですが、全然返事が来ない。何も調べていないのです。

委員会での発言の確認も第1回目の後はありました。しかし、その後は議事録ができてくる度に全然違う。発言をしても、こちらの要求までは書いていない。委員会で藻場の問題も話しましたが、それは議事録には載らない。防衛省は自分たちの都合の悪いことは議事録に載せないのです。委員の意見を聞いて、それを守るのが防衛省のはずなのに、自分らに都合の悪いことは一切書かないで、都合のいいことだけ書いて、それを守っていくだけなのです。そんな委員は意味がありません。

県外からの委員には、沖縄のことはわからないんです。沖縄に来て初めてサンゴを見た人もいたんじゃないでしょうか。

とにかく、委員会で何を言っても響かない。開発一点張りで、サンゴのことだけは答えるが、それ以外のことはま

ともに答えない。海草藻場のことなどは見ないことにしよう、聞かないことにしよう。工事ありきで、他の意見は聞かないという態度です。環境監視と言いながら、工事を進捗させるため、何らかの了解を得るための委員会だと防衛省は思っているようでした。工事を進捗させることに関係ないことには耳を貸さないという態度ですね。それじゃあ何の意味もない、何のための委員会かということで、私は2015年3月に辞めると事務局に伝えました。沖縄防衛局からはこの件で取材があれば、事務局に聞いてくれと答えなさいと言われました。

辺野古、大浦湾の環境は優れています。特に藻場はすごい。あんなに広い藻場は他にないです。それを埋め立てるのは自然破壊そのものです。沖縄本島の山を崩して埋め土を持って来るのも、自然破壊です。辺野古、大浦湾の埋め立ては、やめさせることです。中止すべきです。沖縄にはもう、これ以上、軍用基地はいらないです。

慰霊の日の翁長知事の発言には本当に感激しました。私は、翁長知事の埋め立て承認の撤回を支持します。

東清二

「私たちの暮らしと自然を犠牲にしない」 山城敦子金秀興産社長あいさつ全文 8・11県民大会

琉球新報 2018年8月11日 18:28



山城敦子金秀興産社長

「辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」に登壇した山城敦子金秀興産社長の連帯のあいさつは以下の通り。

みなさまこんにちは。私は金秀グループから来た山城と申します。

ごあいさつの前に翁長知事のご冥福を心よりお祈りしたいと思います。本日は金秀グループ女性を代表して連帯のあいさつを述べさせていただきます。

沖縄の将来を考える一県民、一主婦として、そして未来に責任を持つ一人として、意見を表明し、微力ながらもその一助になればという思いです。

いま沖縄の置かれている状態は、非常事態といっても過言ではありません。昨年12月には未来を担う子どもたちの学び舎に米軍ヘリの窓の落下事故が発生し、今年6月に

は嘉手納基地を飛び立ったF15戦闘機が那覇沖に墜落しました。これが家族や友人、大切な人の下に起きたらと私は想像しただけで胸が張り裂ける思いです。本当にあり得ない事故ばかりです。安全安心を確保する責任と権利は県民一人一人にあるはずです。私たち市民の安らかな暮らしと、自然を犠牲にしてはなりません。

いま世界情勢はめまぐるしく変化しています。なのにこの沖縄だけ、どうでしょう。20年以上前にたてられた辺野古への基地移転計画が実行されようとしています。基地は沖縄の経済発展の最大の阻害要因であるということをみなさんも実感していると思います。那覇新都心しかり、北中城のライカムも同様でございます。基地よりも、民間による開発の方が、足腰の強い沖縄県づくりにつながります。

そして青く輝く美ら海を思い浮かべてください。優しく包み混む沖縄の自然との共生は、先祖から受け継がれた素晴らしい遺産です。

私たちは翁長知事の遺志を貫き、しっかりとした軸足とともにし、沖縄県全体で取り組む平和で豊かな社会づくりに尽力せねばなりません。いま日本政府は県民のむなしさ、怒りを「あきらめ」に変えることに躍起になっています。強硬姿勢の安倍政権にも必ず終わりがあります。われわれは絶対に諦めない。根負けするのは日米両政府の方です。私たちは辺野古新基地建設断念、オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去の実現を日米両政府に求め、断固として辺野古新基地建設を阻止し、違法な土砂投入に反対しようではありませんか。大切な子や孫のためにも、共に頑張ってまいりましょう。

「知事の熱い思い受け止めしっかり判断」 謝花喜一郎副知事あいさつ全文 8・11県民大会

琉球新報 2018年8月11日 18:07



謝花喜一郎副知事

「辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」で、県知事職務代理者の謝花喜一郎副知事のあいさつは以下の通り。

ハイサイ、ぐすーよーちゅうがなびら。沖縄県副知事の謝花です。本日は県知事の職務代理としてごあいさつを申し上げます。本日の県民大会の開催にあたり、雨天にもかかわらず多くの皆

さまにお集まりいただき感謝申し上げます。

本日の県民大会には翁長知事が直接皆さまの前でごあいさつすることを予定しておりましたが、ご承知の通り8月8日、翁長知事は膵臓がん多発がん転移により逝去されました。わたし自身、知事の回復を心から願っておりましたが、このような結果になり誠に残念でなりません。翁長知事のご冥福を心から申し上げます。

翁長知事は平成26年12月の就任から辺野古新基地建設阻止を県政運営の柱とし、県民のために自らをなげうちながらその実現に取り組んできました。知事は政府との会談やワシントン訪問など機会あるごとに辺野古に新基地は造らせないと訴え、政府による基地政策の理不尽さを県民の立場から真剣に指摘し、沖縄の自治と民主主義を守ろうという強い気持ちを持ち、その実現に努力を続けてくれました。

知事は就任してから辺野古新基地建設問題に取り組み、前知事が行った埋め立て承認は環境保全等多くの疑問があったことからこれを取り消しました。その後和解が成立し、国が埋め立て工事をいったん中止しました。そして県は岩礁破碎許可に伴う差し止め訴訟の提起などを行った。これらの取り組みにより通常の埋め立て工事に比べ、新基地の埋め立て工事の着手は約3年遅れました。

まさに闘いがここからということで志半ばに病に倒れ本当に無念だっただろうと思います。翁長知事はわたしと8月4日に面談した際、一日一日しっかりと公務を着実にこなし、県民からのわたしへの付託に応えていきたいというのは、撤回のことだとわたしに話されていた。

知事の思いを深く受け止め、私たちも辺野古に新基地は造らせないという公約実現に向けて、全力で取りくんでまいりたいと思います。翁長知事が県民のためにまさに命を削ってまで辺野古新基地反対を貫いた姿勢は末永く後生まで語り継がれるものだと思います。

これまで新基地建設に反対する県民の民意が繰り返し示されているにもかかわらず、民意を無視し、新基地建設を強行する政府に対して多くの県民が激しい怒りを抱いていることを政府は理解すべきであります。政府は全体の施設設計や環境保全対策を示すこともなく、公有水面埋め立て工事に着工し、またサンゴ類を事前に移植することなく工事を行うなど承認を得ないで、環境保全図書の記載等々異なる方法で工事を実施しております。

また、独自調査によるC5護岸設計箇所が軟弱地盤で、護岸倒壊等の危険性があることが判明したことや、活断層の存在が専門家から指摘されていること、辺野古新基地が完成したときには沖縄高専の校舎などが米国防総省の基準の高さ制限に抵触するなどさまざまな事実が判明しております。

沖縄県は再三にわたり行政指導や紹介を行っているが、政府は真摯（しんし）に向きあうことなく、工事を続けて

います。政府はこれまで工事を強硬し続けており、8月17日には埋め立て土砂を投入するとしています。

これは県民の民意や美しいサンゴに彩られた辺野古大浦湾の自然環境への配慮を無視したものと云わざるを得ず、とうてい容認できない。翁長雄志知事は「政府はなりふりかまわず、やっきになっており、県民の無力感、あきらめ感をさそおうとしているが、県民の権利を守り、新基地の危険を子や孫に背負わせないため、ここであきらめるわけにはいかない」と言っていた。

普天間飛行場の所属機については平成28年12月に名護市安部にオスプレイが墜落し、平成29年10月に東恩高江の牧草地にCH53Eヘリが不時着炎上した。同年12月には子どもたちにとって一番安全であるべき場所の宜野湾市の保育園にCH53Eヘリの部品が落下し、同じ月に普天間第二小にヘリの窓枠の落下事故が起きるなど、まさに県民が危惧していたとおり、県民の命に関わりかねない事故が頻発しており、強い怒りと憤りを禁じ得ない。沖縄県はこれまで政府に対して普天間飛行場の一日も早い危険性除去のために5年以内の運用停止を求めてきた。県議会でも今年2月、政府が約束した平成31年2月末日をまたずにただちに、同飛行場の運用停止を求める意見書を全会一致で可決しているが政府はこれらの求めに対応せず危険性を放置している。

沖縄県は今般、埋め立て承認を撤回すべき事由があるとの結論にいたり、撤回に向けた手続きとして、沖縄防衛局に対して聴聞を行い、審理が終了しました。現在聴聞審理の結果が取りまとめられているところですが、埋め立て承認の撤回については主宰者による聴聞の審理状況も踏まえ、県政をお預かりしているわれわれとして、辺野古に新基地は作らせないという翁長知事の強く熱い思いを受け止め、そして引き続きしっかりと毅然として判断していきます。これからも県民一丸となつて心をつなげて、ともに頑張っていきましょう。ゆたさるぐとう、うにげさびら。ありがとうございます。

県民大会にウーマンラッシュアワー村本さんも参加

琉球新報 2018年8月12日 05:00



県民大会の会場で、参加者の話を聞くお笑いコンビ「ウーマンラッシュアワー」の村本大輔さん＝11日、那覇市の奥武山公園

11日の県民大会会場には、お笑いコンビ「ウーマンラッシュアワー」の村本大輔さんの姿があった。登壇者のあいさつを聞く一方で、参加者から声を掛けられると「あなたは何でここに来たんですか」と、逆に質問し話を聞き取ることを繰り返していた。

那覇市内で開催された独演会を前に、「リアルな声を自分で拾いたかった」という。20代の学生2人から「相手が友だちでも、基地の話をするとな変な空気になるから話題に出さない」という話を聞いた。それに対し村本さんは「それでもあの2人はここ（県民大会）へ来た。僕は賛成でも反対でもないが、こんなにさまざまな感情がうずめいているところに無理やり（基地を）造ることが許せない」と語気を強めた。

沖縄 副知事 辺野古承認撤回に前向きな姿勢

NHK8月11日 13時16分



沖縄県のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する大規模な集会が11日、那覇市で開かれ、亡くなった翁長知事の職務代理を務める謝花副知事が「新たな基地を造らせないという翁長知事の思いを受け止める」などと述べ、辺野古の埋め立て承認の撤回に前向きな姿勢を示しました。

アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設工事をめぐっては、沖縄防衛局が今月17日にも護岸で囲った埋め立て予定地に土砂を投入する方針で、県は埋め立て承認の撤回を行うかどうか検討を進めています。

今月8日に亡くなった翁長知事を支えてきた市民団体などでつくる「オール沖縄会議」は11日、那覇市で辺野古への土砂の投入に反対する大規模な集会を開き、主催者の発表で7万人が集まりました。

始めに、亡くなった翁長知事へ黙とうがささげられ、次男で那覇市議会議員の雄治さんが登壇し「父に辺野古基地移設が止められたと報告できるよう頑張りましょう」と述べました。

そして、翁長知事の職務代理を務める謝花副知事が「亡くなる4日前に知事は『県民からの負託に応えたいというのは撤回のことで』と私に話した。新たな基地を造らせないという思いを受け止め、きげんとして判断する」などと述べ、埋め立て承認の撤回に向けて前向きな姿勢を示しまし

た。

参加者「若い世代 基地問題知らない人多い」

集会に参加した60代の男性は「絶対に基地を造らせたくないという思いで参加した。戦後、沖縄はずっと基地の負担が押しつけられているので今後、翁長知事の遺志を引き継ぐ人に知事を務めてほしい」と話していました。

また県外の大学に通うという19歳の男性は、「翁長知事の思いを引き継いでいかなければと思って参加した。若い世代には基地の問題を知らない人が多いので、自分がこの現状を周りの友達に伝えて行きたい」と話していました。

大規模集会の参加者は

NHK沖縄8月11日 12時59分

浦添市から参加した60代の男性は「絶対に基地を造らせたくないという思いで参加した。戦後、沖縄はずっと基地の負担が押しつけられているので今後、翁長知事の遺志を引き継ぐ人に知事を務めて欲しい」と話していました。久米島出身で県外の大学に通う19歳の男性は「翁長知事の思いを引き継いでいかなければいけないと思って参加した。若い世代には基地の問題について知らない人が多いので自分がこの現状を周りの友達に伝えて行きたい」と話していました。

那覇市の60代の女性は、今月17日にも辺野古の埋め立て予定地に土砂が投入されることについて「基地が建設されるのは許されない。命を懸けて撤回しようとしていた翁長知事の遺志を継いで、県には埋め立て承認の撤回をして欲しい」と話していました。

中学生の頃から集会に参加していたという那覇市の20代の男性は「基地がなく県民が安心して暮らせるようにと築いてきた翁長知事の取り組みを私たちが引き継いでいきたい。国には県民の声を聞いて欲しい」と話していました。中学生の娘と息子を連れて参加したうるま市の40代の男性は「子どもたちのためにきれいな海を守ろうと取り組んできた翁長知事の思いを受け継ぎ、県民が意思を示していくことが大事だと思う。声を上げ続けていきたい」と話していました。

宜野湾市の70代の女性は「翁長知事が亡くなって沖縄は今後どうなるんだろうという思いだ。知事の息子さんたちが遺志を引き継いで基地を造らせないよう頑張ってもらいたい」と話していました。

JNN11日17時32分

亡き知事の遺志、辺野古移設反対 那覇市で県民大会

今月8日、すい臓がんで亡くなった沖縄県の翁長知事。

11日、茶毘に付されました。

翁長知事の死を悼む人々。アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する県民大会が那覇市で開かれました。

「絶対（翁長知事の）遺志を継いで、これ（移設）を止

めないといけない」(参加者)

翁長知事の次男・雄治さんは生前、知事が語ったというメッセージを紹介しました。

「ウチナーンチュが心をついに闘う時は、お前が想像するよりもはるかに大きな力になると話していた。翁長雄志に辺野古新基地建設は止められたよと、そういう報告ができるように、皆様、頑張りましょう」(翁長知事の次男 翁長雄治さん)

壇上に置かれた青色の帽子。翁長知事が大会のために用意したものです。台風の接近で雨が降りしきるなか、大会には主催者発表で7万人が集まり、辺野古移設阻止の象徴だった翁長知事を悼みました。

辺野古での工事を加速させたい国は、今月17日にも土砂を投入する方針ですが、沖縄県は埋め立て承認の撤回で対抗する方針です。

「埋め立て承認の撤回については、辺野古新基地は造らせないという、翁長知事の強く熱い思いを受け止め、毅然と判断する」(謝花副知事)

「日本の民主主義と平和を守るため、この不条理に対し全力で抗い続ける」(県民大会決議)

「辺野古基地断念を政府に突き付けて、翁長知事に報告したい」(参加者)

「本当に平和な沖縄をみんなで一つになるのがとても大事な時期じゃないかなと」(参加者)

翁長知事の遺志は、沖縄の明日を担う人々へ託されました。

JNN11 日 12 時 40 分

辺野古移設反対、沖縄・那覇市で県民大会

沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する県民大会が、那覇市で開かれました。

台風の接近で雨が降る中、会場は辺野古の海をイメージした青と、翁長知事への追悼を込めた黒を身につけた多くの参加者で埋め尽くされました。

「未来の子どもたちにきれいな海を残してあげたいし、基地があることによって戦争への危険性が高まるので」(参加者)

大会は今月17日にも予定されている名護市辺野古の海への土砂投入を前に、基地建設の断念を求めるために開かれました。

冒頭、今月8日にすい臓がんで死去した翁長知事への黙とうが捧げられた後、知事の息子、翁長雄治さんがメッセージを寄せました。

「父・翁長雄志に辺野古新基地が止められたと、そういう報告ができるようにみなさま、頑張りましょう」(翁長雄治さん)

これまでに6万人、会場に集まったと主催者が発表しました。

辺野古埋め立て承認撤回へ 翁長知事の遺志引き継ぐ ANN2018/08/11 17:41

沖縄県名護市辺野古への新基地建設に反対する沖縄の県民大会が那覇市で開かれ、主催者の発表で7万人が参加しました。

会場には、8日に亡くなった翁長知事の死を悼み、黒い喪章を身に着けた人の姿も多く見られました。

翁長知事の次男・雄治さん:「ウチナーンチュ(沖縄県民)が心をつにして闘う時には、お前が想像するよりもはるかに大きな力になる」

翁長知事の次男の雄治さんは、沖縄県民の団結を願った知事の生前の言葉を伝えました。翁長知事は辺野古の埋め立て承認撤回を最終判断する前に亡くなりましたが、知事の職務代理者を務める謝花副知事は「毅然(きぜん)と判断していく」と述べて、方針は変えていないことを示しました。

沖縄 “辺野古移設反対”の大規模集会

NNN2018年8月11日 15:41

沖縄で、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する大規模な集会が開かれた。集会は、国が、辺野古への埋め立て土砂の投入を17日にも始めようと計画している中で行われ、主催者発表で7万人が参加した。

全文を読む

沖縄で、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する大規模な集会が開かれた。

集会は、国が、辺野古への埋め立て土砂の投入を17日にも始めようと計画している中で行われ、主催者発表で7万人が参加した。

集会では始めに、3日前に急逝した翁長雄志知事に、黙とうがさげられ、知事の二男の雄治さんが、知事の生前の言葉を披露した。

故・翁長雄志知事の二男 翁長雄治さん「ウチナーンチュ(沖縄の人)が心をつにして闘う時には、おまえが想像するよりもはるかに大きな力になると」

また、翁長知事が座る予定だったイスには、知事の帽子が置かれた。

参加者「県知事のオール沖縄として参加したいと思って、今日は来ました」

参加者「埋めることがありきの状態で、国が進めていることに憤りを感じますし、沖縄県民がこれだけ怒っているということを行動で示さない」と

集会では、辺野古移設の断念を求める決議文が採択された。

辺野古移設批判の動き、各地に 翁長氏悼み「遺志継ぐ」

共同通信 2018/8/11 19:43

「遺志を受け継ぐ」「県民を無視するな」。11日、米軍普

天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対する県民大会に合わせ、北海道や大阪、福岡など各地でも市民が集会やデモ行進に参加し、8日死去した翁長雄志氏を追悼、工事を進める政府を批判する声も上がった。

札幌市では約130人が横断幕やプラカードを掲げ「沖縄の思いを無視しないで」とアピール。大阪市北区の集会では、約200人が翁長氏の写真などを掲げデモ行進した。京都市では約80人が参加。福岡市の繁華街・天神では、市民団体の約30人が黙とう。名古屋市の繁華街・栄では市民団体メンバーら約300人が集まった。

「翁長さんの遺志を継ぐ」 全国20以上の地域で県民大会連帯の集い 東京・池袋には2800人（主催者発表）
琉球新報 2018年8月11日 14:20



翁長雄志知事の遺志を継ぎ、辺野古新基地建設反対を訴え、沖縄での県民大会に呼応する首都圏大行動で街頭をデモ行進する参加者ら＝11日午後、都内・池袋

【東京】沖縄での県民大会に連帯する「埋めるな！辺野古 沖縄県民大会に呼応する8・11首都圏大行動」が11日、都内の東池袋中央公園で開かれた。

翁長雄志知事の死去を悼み、辺野古新基地建設で17日に予定される土砂投入への反対を確認し合った。

約2800人（主催者発表）の参加者らは「翁長さんの遺志を継ぐ」などのプラカードを掲げて池袋駅前をデモ行進し、新基地反対への連帯を沿道に訴え掛けた。

集まりでは首都圏のほか、北海道・帯広から東北、中部、東海、関西、福岡など全国20以上の地域でも県民大会に連帯する集まりがもたれたことが報告された。



翁長雄志知事の遺志を継ぎ、辺野古新基地建設反対を訴え、沖縄での県民大会に呼応する首都圏大行動で街頭をデモ行

進する参加者ら＝11日午後、都内・池袋

首都圏大行動では、沖縄環境ネットワークの花輪伸一世話人が主催者あいさつし「知事職務代理者により一刻も早く埋め立て承認が撤回され、17日からの土砂投入を中止させることを強く要請する。新基地建設絶対反対を私たち自身の問題としてとらえ、全国の市民と連帯して新基地建設を中止に追い込みたい」と述べた。

集まりの冒頭には翁長知事に黙祷をささげた。沖縄の県民大会での謝花喜一郎副知事の知事職務代理者のあいさつが中継され、拍手が起こった。

街頭デモでは「沖縄差別を許さない」「首都圏に住むわれわれの問題だ」「工事をやめろ」「サンゴを守ろう」「辺野古の海を土砂で埋めるな」などと沿道に呼び掛けた。

沿道にはコール（呼び掛け）に応じて口ずさむ人や、辺野古新基地反対のチラシを手に取り中身に見いる人の姿もあった。【琉球新報電子版】

「基地負担軽減に努力」＝翁長知事の冥福祈り通夜＝沖縄



8日に死去した沖縄県の翁長雄志知事の通夜に並ぶ参列者＝10日午後、那覇市

8日に死去した沖縄県の翁長雄志知事の通夜が10日、那覇市の大典寺で営まれた。政界関係者や県民らが訪れ、冥福を祈った。米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設をめぐり、県と対立した政府から菅義偉官房長官も参列した。

通夜に訪れた稲嶺恵一元沖縄県知事は「全身全霊を尽くして頑張り抜いた一生だった。沖縄の過重な基地負担を何とかしたいと努力したが、道半ばで去られたことは本人も残念だと思う」と述べ、故人をしのんだ。

翁長氏とともに辺野古反対を訴えた社民党の照屋寛徳衆院議員は「沖縄とうちな一んちゅ（沖縄人）の尊厳を守るために命を削って闘ってきた」とたたえた。那覇市の城間幹子市長は「今まで抑えつけられていた沖縄の心が彼によって声を出していいと（変わった）」と振り返った。

一方、菅氏は参列後、記者団に「辺野古移設は意見が分かれたが、沖縄振興ではいろんな話し合いをしたことを思いながら焼香した」と語った。

秋の知事選への出馬を予定し、翁長氏と対決の可能性があった宜野湾市の佐喜真淳市長は「極めて残念だ。翁長氏に恥じない沖縄づくりをやらなければならない」と強調した。（時事通信 2018/08/10-22:10）

翁長沖縄県知事通夜、急逝惜しむ 「全力で沖縄に尽くした」

共同通信 2018/8/10 21:20



翁長雄志沖縄県知事の通夜の祭壇に飾られた遺影＝10 日午後、那覇市

沖縄の過重な基地負担軽減を訴え続け、8 日に 67 歳で急逝した翁長雄志沖縄県知事の通夜が 10 日、那覇市の大典寺で営まれた。「沖縄のために全力を尽くしてくれた」（読谷村の会社役員）として多くの県民が参列し、会場は悲しみに包まれた。元知事や菅義偉官房長官ら政界関係者も訪れ、突然の別れを惜しんだ。

祭壇には色とりどりの花が添えられ、スーツ姿で笑顔の翁長氏の遺影が飾られた。焼香の長い列ができ、ハンカチで涙をぬぐう人の姿もあった。

10 日は、翁長氏を追悼するための記帳が県庁 1 階などで始まった。県によると記帳所は 13～17 日に、大阪市北区の県大阪事務所にも設置される。



翁長雄志沖縄県知事の通夜を訪れ、取材に応じる稲嶺恵一元知事＝10 日午後、那覇市

8/10 21:20

翁長知事の通夜営まれる 東京の沖縄県事務所にも記帳所



通夜会場に運ばれる翁

長雄志沖縄県知事のひつぎ＝2018 年 8 月 10 日午後 4 時 50 分、那覇市の大典寺、小宮路勝撮影



8 日に膵臓（すいぞう）がんのため 67 歳で死去した沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事の通夜が 10 日、那覇市の大典寺で営まれ、県民や国会議員ら多くの人が参列し、死を悼んだ。

稲嶺恵一・元知事は、親族から「2 カ月以上も前から病状が深刻だと本人もわかっていた」と聞いたことを明かし「その間、全く表面には出さず、ひたすら公務に励んだその姿を思い出すと非常に胸を打たれる」と話した。菅義偉官房長官は弔問後、記者団に「米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設については意見が分かれたが、沖縄の振興発展については色んな意味で話し合いをしてきた。大変思い出深く、そういう思いで焼香した」と語った。

葬儀は 13 日午後 3 時から同じ大典寺（那覇市松山 1 の 9 の 1）で営まれる。喪主は妻樹子（みきこ）さん。

県は 10 日、県庁や東京にある沖縄県の東京事務所などに記帳所を設けた。県庁には朝から県民らが次々と訪れ、追悼の思いを込めて名前を記入した。県は 13～17 日には、大阪市北区にある県大阪事務所と、名古屋市中区にある名古屋駐在にも追加で記帳所を設ける。

翁長知事死去 菅官房長官が那覇訪れ、通夜に参列

毎日新聞 2018 年 8 月 10 日 20 時 20 分(最終更新 8 月 10 日 22 時 27 分)

菅義偉官房長官は 10 日、那覇市を訪れ、8 日に急逝した翁長雄志知事の通夜に参列した。2 人は 2015 年に複数回会食して接点を探り合っており、菅氏は記者団に「辺野古移設で意見が分かっていたが、沖縄の振興について話し合ってきたことが思い出深い」と悼んだ。9 月中に行われる見通しの知事選について「地方の首長選なので政府の立場でコメントは控える」と述べるにとどめた。

これに先立ち、菅氏は移設工事について防衛省沖縄防衛

局幹部と協議。県が辺野古沿岸部の埋め立て承認の撤回に向けて実施した「聴聞」の説明を受けたとみられる。菅氏は海への土砂投入を予定通り 17 日に行うかについて「(県の動向を) しばらく見守りたい」と述べた。【高橋克哉】



翁長雄志沖縄県知事の通夜会場に入る菅義偉官房長官＝那覇市で2018年8月10日午後5時22分、望月亮一撮影

翁長知事の通夜、別れ惜しむ 官房長官も焼香

日経新聞 2018/8/10 20:08

記事保存

臍臓(すいぞう)がんと診断された翁長雄志知事の通夜が10日、那覇市内の大典寺でしめやかに営まれた。県内外の友人、知人や政界関係者など多くの人が参列し、翁長氏との別れを惜しんだ。



多くの参列者が参列した翁長雄志知事の通夜(10日、那覇市)

菅義偉官房長官も会場を訪れ焼香した。多くの参列者は黒いかりゆしなどに身を包み、境内で長い列を作った。

祭壇には色とりどりの花が添えられ、笑顔の翁長知事の遺影が飾られた。ハンカチで涙をぬぐう参列者の姿も見られた。稲嶺恵一知事は参列後、「できることは全部やったんだという、最後は安らかなお気持ちになられたと思う」

と静かに語った。

しんぶん赤旗 2018 年 8 月 11 日(土)

翁長氏の急逝 悼む那覇・小池・赤嶺氏ら通夜参列

8日に急逝した故・翁長雄志知事の通夜が



(写真) 翁長雄志知事の死を悼み通夜に訪れた人々＝10日、沖縄県那覇市

10日、那覇市の大典寺で営まれました。国政・県政の与野党を問わず多くの人が参列し、翁長氏の急逝を悼みました。

日本共産党から小池晃書記局長、赤嶺政賢県委員長(衆院議員)、鶴渕賢次県委員長代理、猪原健書記長、渡久地修、嘉陽宗儀、玉城武光、西銘純恵の各県議が参列しました。小池氏は記者団に対し、「翁長知事の思いをしっかり受け継いで建白書の立場を引き継ぐ知事を必ず誕生させ、辺野古の新基地建設を完全に断念させることで翁長さんの思いに応えたい」と決意を語りました。

参列した菅義偉官房長官は、辺野古新基地をめぐる知事との激しい議論を「大変思い出深い」としつつ、新基地建設は「地元の市長・県知事、閣議で決めた」として、引き続き推進する考えを示しました。

自民党推薦で県知事選への立候補を表明している佐喜真淳・宜野湾市長も参列。翁長氏については「目標とする政治家」と述べる一方、翁長氏が命をかけて反対した辺野古新基地建設の是非には一切触れませんでした。

城間みきこ那覇市長も参列しました。

しんぶん赤旗 2018 年 8 月 11 日(土)

翁長沖縄県知事死去で 志位委員長が弔電

日本共産党の志位和夫委員長は9日、翁長雄志沖縄県知事の死去(8日)にあたり、弔電を送りました。全文は次の通りです。

翁長雄志沖縄県知事の突然の訃報に接し、強い悲しみにうたれています。心からのお悔やみを申し上げます。

みじんも揺らぐことのない不屈の信念と、烈々たる気概をもち、県民の心をご自身の心として、文字通り命がけで「辺野古に新基地をつくらせない」と訴え続けた翁長知事

の4年間のたたかひに、深い敬意と感謝をささげます。

「これからは保守は革新に敬意をもち、革新も保守に敬意をもち、力をあわせて基地のない沖縄をつくりましょう」。翁長知事のこの言葉が、深く心に残っています。保守・革新の垣根を超えた、そして心をつなげた共闘にこそ沖縄の未来がある。そのことをご自身の行動を通じて実証されたのが翁長知事でした。

ご遺志を引き継ぎ、翁長知事が精魂を傾けて築き上げた「オール沖縄」の結束を強め、来るべき知事選挙で必ず勝利し、平和で誇りある豊かな沖縄を築くために、日本共産党もあらゆる知恵と力をつくす決意です。

8月9日 日本共産党幹部会委員長 志位和夫

翁長知事の通夜、弔問続々 笑顔の遺影、参列者冥福祈る 琉球新報 2018年8月11日 07:00



翁長雄志知事の通夜。参列する人たちが続々と入っていった＝10日、那覇市の大典寺

8日に死去した沖縄県の翁長雄志知事の通夜が10日夜、那覇市松山の大典寺でしめやかに営まれた。菅義偉官房長官、福井照沖縄担当相ら閣僚をはじめ、県内の政治・経済関係者のほか、多くの一般県民が訪れ、翁長氏の冥福を祈った。

遺体が入ったひつぎの傍らには、晩年好んで飲んでいたワインの瓶が並び、笑顔の翁長知事の遺影が飾られた。遺族によると、遺影の写真はことし初めごろに孫3人を抱いて撮った写真から切り取られた。

午後4時10分ごろ、自宅を出た翁長知事のひつぎは同50分ごろ、大典寺に到着し、親族らがひつぎをゆっくりと会場まで運んだ。午後5時半ごろから弔問客が続々と訪れて列ができ、午後6時から同9時まで弔問客は途切れなかった。弔問客の一人によると、翁長さんは闘病で体は痩せつつも穏やかな顔をしていたという。

翁長知事の出棺は11日、告別式は13日午後3時から4時半、那覇市松山1の9の1の大典寺で行われる。告別式の前には、位牌(いはい)を乗せた車両が県庁正面玄関や、4期計14年間の市長時代に通った那覇市役所の正面を通る。告別式の喪主は妻の樹子(みきこ)さん。

遺影は穏やかな笑顔... 翁長知事の急逝惜しむ 沖縄で通夜、1500人参列

沖縄タイムス 2018年8月11日 08:52

沖縄の基地負担軽減を訴え続け、8日に67歳で亡くなった翁長雄志知事の通夜が10日夜、那覇市の大典寺で営まれた。親族のほか、友人や国会議員、県議、県幹部ら約1500人が別れを惜しんだ。告別式は13日午後3時から同4時半、大典寺で執り行う。



通夜が始まる前、会場入り口に並ぶ参列者＝10日午後、那覇市・大典寺(下地広也撮影)

遺影には今年の元旦に孫2人を膝にのせた写真が選ばれた。イメージカラーの鮮やかな緑のネクタイを締めている。名護市辺野古の新基地建設に反対を貫き、難しい顔をする事の多かった知事が、仕事から離れ、穏やかな笑顔を浮かべた貴重な1枚という。

稲嶺恵一元知事(84)は2カ月前から病状が思わしくなかったことと聞き、「病院に駆けつけた時、本当に安らかな顔だった。2カ月前から覚悟し、できることは全部やっただという気持ちではないか」と沈痛な面持ちで語った。

2年間秘書を務めた県職員の中山貴史さん(40)は車の中や飛行機の待ち時間で翁長知事の言葉を聞いた。米軍関係の事件・事故が相次いでも「沖縄の発展に足かせになるなら取り除かなければならない」と疲れを見せない一方、「僕の仕事を基地だけと思っているでしょう」と言いながら、子どもの貧困問題などに懸命に取り組んでいた姿が忘れられないと語った。

沖縄知事選 翁長氏後継選び加速 自民けん制「経済が争点」

東京新聞 2018年8月12日 朝刊

沖縄県の翁長雄志(おながたけし)知事の死去に伴い九月に行われる見通しになった知事選に向け、同県名護市辺野古(へのこ)での米軍新基地建設に反対を訴える陣営は、翁長氏の後継候補の人選を加速させる構えだ。自民党は基地問題の争点化を嫌い、経済を前面に押し出している。

新基地反対陣営は十三日に予定される告別式後、一気に人選を本格化させる方針。陣営にとって今回の知事選は「弔い合戦」。新基地建設の是非を争点に位置付け、埋め立て承認の撤回を表明した翁長氏の遺志を継ぐ候補を前提にする。

四年前に翁長氏の後任として那覇市長に就任した城間幹

子（しろまみきこ）氏は十一日の「県民大会」で「私たちが翁長氏の遺志を継いでいきたい」と呼びかけた。陣営は「翁長氏の火を消さない」（幹部）と、前回知事選で革新勢力に保守支持層も加わった「オール沖縄」の支援で翁長氏が当選したことを念頭に、幅広い支持が得られる候補の擁立を目指す。

これに対し、既に宜野湾（ぎのわん）市長の佐喜真（さきま）淳氏の擁立を決めた自民党は、反発が根強い新基地建设に話題が集中することを警戒する。菅義偉（すがよしひで）官房長官は十日夕、那覇市内での翁長氏の通夜に参列。知事選について「県民の皆さんの経済や福祉、沖縄の発展など、さまざまなことが争点になるだろう」と記者団に語り、新基地反対派をけん制した。

加えて、知事選と自民党総裁選の日程が重なることも、政権側には懸念材料だ。自民党関係者は「これまでの沖縄県内の首長選のように、幹部や知名度の高い国会議員を次々投入しにくい」と漏らす。知事選の投開票日は九月二十三日か三十日になる見込み。（篠ヶ瀬祐司）

翁長知事の通夜営まれる 沖縄 那覇

NHK2018年8月10日 18時48分



8日亡くなった、沖縄県の翁長知事の通夜が那覇市で営まれていて、ゆかりのあった人たちが次々に訪れて、別れを惜しんでいます。

沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設反対を訴えて、国と激しく対立してきた沖縄県の翁長知事は8日、すい臓がんのため67歳で亡くなりました。

10日、午後6時から那覇市の大典寺で通夜が営まれていて、白い花に囲まれた祭壇の中央には朗らかにほほえむ翁長知事の遺影が飾られました。

稲嶺恵一元知事や菅官房長官などゆかりのあった人たちが次々に弔問に訪れていて、別れを惜しんでいます。

夜は午後9時まで行われ、告別式は今日（13日）の午後3時から通夜と同じ那覇市の大典寺で営まれます。

稲嶺元知事「全身全霊、頑張り抜いた」

通夜に訪れた稲嶺恵一元沖縄県知事は「全身全霊、全力を尽くして頑張り抜いた。私が知事選に出馬するときにいちばん、影響を与えたのは翁長知事だった。本当にご苦労様でした。お疲れ様でした。どうぞ安らかに休息くださいと申し上げました」と述べました。

菅官房長官「意見分かれたが思い出深い」

菅官房長官は、沖縄県の翁長知事の通夜に出席したあと、記者団に対し、「翁長知事と私は普天間飛行場の移設について意見は分かっていたが、沖縄の振興策を話し合ってきたことは大変思い出深く、そういう思いを持って焼香した」と述べました。

また、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設工事で、今日（17日）にも行うとしている埋め立て予定地への土砂の投入について、「きのう沖縄県が国からの『聴聞』を行ったので、それを踏まえて今後どうするかは沖縄県が決めることで、しばらく見守りたい」と述べました。

さらに、今日の沖縄県知事選挙について、「地方選挙であり、基本的には県民の経済や福祉、それに沖縄の未来に向けての発展などさまざまなことが争点になるだろう」と述べました。

翁長知事の書籍、売り切れも 書店に特設コーナー

沖縄タイムス 2018年8月11日 05:52

沖縄県の翁長雄志知事の訃報を受け、自身の著書「戦う民意」（角川書店）など関連本の売れ行きが伸びている。那覇市牧志のジュンク堂書店那覇店では8日夜から、追悼の言葉を添えた特設コーナーを設けて関連本5冊を陳列した。



書店に設けられた翁長知事の特設コーナー

「戦う民意」は2015年発行。同店では翁長知事の訃報が報道された8日夜から再び売れ始め、9日夜までに完売した。出版社に在庫を問い合わせたが、すでになかったという。

森本浩平店長（43）は「沖縄のために尽くした功績が評価され、足跡をたどりたいというお客さまが手に取っているのでは」と推し量る。特設コーナーで足を止めた西原町の男性（86）は「政府の圧力にも負けず、沖縄戦、基地の重圧の歴史を訴えた。よくぞ沖縄魂を見せてくれた。本当に惜しい人を失ったよ」と目に涙をためた。

大手通販サイトのアマゾンでは9日午前10時半時点で、松原耕二さん著「反骨 翁長家三代と沖縄のいま」（16年、朝日新聞出版）が本の政治家部門売り上げランキングで2位を記録した。

政府・与党 翁長氏悼む 知事選見据え低姿勢



記者会見する安倍晋三首相＝長崎市で 2018 年 8 月 9 日午後 1 時 1 分、森園道子撮影

安倍晋三首相は 9 日、長崎市で記者会見し、沖縄県の翁長雄志知事の死去について「常に沖縄の発展のために命懸けで取り組んでこられた政治家だ。沖縄の発展のために尽くされたご貢献に敬意を表したい」と哀悼の意を示した。米軍普天間飛行場（同県宜野湾市）の名護市辺野古への移設を巡って対立してきた政府・与党だが、9 月中に実施される見通しの知事選も見据え、亡くなった翁長氏を悼む姿勢を強調している。

首相は、沖縄に米軍基地の負担が集中している現状を挙げ「基地負担の軽減、沖縄県の発展のため、常に沖縄に寄り添いながら全力を尽くす」と語った。自民党の二階俊博幹事長が 9 日に弔問のため急きょ沖縄入りしたほか、菅義偉官房長官も 10 日に沖縄を訪問する。

11 月 18 日に投開票予定だった知事選は 9 月中に前倒しとなる見通しだ。辺野古移設を目指す政府・与党は同県宜野湾市の佐喜真淳市長の擁立を決めている。与党側は移設反対を掲げた翁長氏の「弔いムード」が広がることを警戒し、まずは翁長氏を悼むことで県民感情の反発を招かないよう腐心している。菅氏は会見で沖縄の負担軽減に向け「翁長知事の沖縄にかけける思いをしっかり受け止め、全力で取り組みたい」とアピールした。【竹内望、野間口陽】

沖縄県の「聴聞」打ち切りに不満＝小野寺防衛相



閣議後、記者団の取材に応じる小野寺五典防衛相＝10 日午前、首相官邸

小野寺五典防衛相は 10 日の閣議後の記者会見で、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設をめぐる、埋め立て承認撤回に向け、県が 9 日実施した沖縄防衛局への「聴聞」について「十分な質疑応答がなされず、

約 2 時間半で終結宣言がなされ、防衛省としては満足のいくやりとりができなかった」と述べ、県の対応に不満を示した。防衛省は聴聞の継続を求めている。（時事通信 2018/08/10-11:34）

土砂投入、県の出方見極め＝沖縄防衛局から聴聞報告＝菅官房長官

菅義偉官房長官は 10 日、那覇市内で防衛省沖縄防衛局幹部と会い、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設をめぐる、県が埋め立て承認撤回に向けて同局を対象に行った聴聞について報告を受けた。この後、菅氏は記者団に、17 日に予定される辺野古沖への土砂投入について「（撤回を）どうするかは沖縄県が決めることであり、しばらく見守りたい」と述べ、県の出方を見極めて判断する考えを示した。（時事通信 2018/08/10-18:57）

陸上イージス、円滑に導入＝日米防衛相が一致

小野寺五典防衛相は 10 日夜、マティス米国防長官と電話で会談し、日本が米国から調達する陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」について、円滑な導入に向けて引き続き協力していくことで一致した。日本の陸上イージス導入をめぐるのは、日ロ両政府による先の外務・防衛担当閣僚協議（2 プラス 2）でロシア側が懸念を示している。

電話会談ではまた、北朝鮮の全ての大量破壊兵器とあらゆる射程の弾道ミサイルの「完全かつ検証可能で不可逆的な廃棄（CVID）」に向け、国連安全保障理事会決議の完全な履行を引き続き求めていくことを確認した。（時事通信 2018/08/10-23:43）

陸上イージス、26 日から再説明＝山口

山口県萩市は 10 日、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の配備に関し、政府が 26、27 両日に住民説明会を開くと発表した。6 月の説明会の後、防衛省が現地調査を延期したことを踏まえ、同市の藤道健二市長が再説明を要望していた。隣接する阿武町でも 28、29 両日に説明会が開かれる。（時事通信 2018/08/10-18:04）

米、北朝鮮と「ほぼ毎日連絡」 ポンペオ氏再訪朝は未定 共同通信 2018/8/10 08:46

【ワシントン共同】米 국무省のナウアート報道官は 9 日の記者会見で、北朝鮮と、ほぼ毎日のように連絡を取り合っていると述べる一方、ポンペオ国務長官の再訪朝は未定だと説明した。

ナウアート氏は、米朝間で電話や電子メールを使ったやりとりが「毎日か 1 日おき」のペースで続いていると述べた。

ボルトン大統領補佐官（国家安全保障問題担当）は 6 日、

ポンペオ氏が平壤を訪れて金正恩朝鮮労働党委員長と会談することを最近、北朝鮮側に提案したと明らかにしたが、ナウアート氏は「公表できる会議や出張の予定はない」と述べた。

韓国と北朝鮮、思惑にずれも＝閣僚級会談の代表団確定

【ソウル時事】韓国統一省は11日、板門店の北朝鮮側施設「統一閣」で13日に行われる北朝鮮との閣僚級会談について、双方の代表団が確定したと発表した。韓国は趙明均統一相が首席代表で、大統領府の南官杓・国家安保室第2次長らが出席、次回の南北首脳会談の日程や議題の調整を行いたい考えとみられる。

これに対し、北朝鮮は祖国平和統一委員会の李善権委員長が首席代表を務め、金潤赫鉄道省次官らが参加。鉄道連結問題を重視する布陣で、双方の思惑のずれが表面化する可能性もある。

11日付の韓国紙・朝鮮日報は、韓国政府が当初、秋に予定されていた次回首脳会談を8月中にも開く方向で北朝鮮と本格協議していると報じた。非核化や朝鮮戦争の終戦宣言をめぐり、こう着状態に陥っていた米朝間の交渉で最近、「進展が見られる」と判断したためという。

具体的な進展内容は明らかではないが、13日の南北閣僚級会談に続き、ポンペオ米 국무長官が近く訪朝。米朝協議を受けて南北首脳会談も開かれるというシナリオを同紙は伝えている。

ただ、南北の鉄道連結を早期に実現させ、国際制裁の緩和・解除に向けた突破口にしたい北朝鮮に対し、韓国側は非核化実現まで大規模投資は困難な状況。北朝鮮は、4月の南北首脳会談で署名された「板門店宣言」の履行に関し「実質的に進んでいることはほとんどない」（朝鮮労働党機関紙・労働新聞）と不満をあらわにしている。（時事通信 2018/08/11-18:17）

非核化でも「核技術保持」＝米国への不信感鮮明－北朝鮮外相

【カイロ時事】北朝鮮の李容浩外相は9日、訪問先のイランでラリジャーニ国会議長と会談し、非核化に関連して「非核化に合意したが、米国がわれわれに対する敵視を放棄しないことは承知している。このため、われわれは核技術を保持するだろう」と語った。イランのメヘル通信が伝えた。

李外相は「われわれの主な目標は朝鮮半島全体の完全な非核化だ」と改めて主張。「米国が自らの約束を順守する必要があるが、彼らはそれを拒んでいる」と述べ、米国への根強い不信感をあらわにした。（時事通信 2018/08/10-17:40）

北朝鮮、国連総長に反発＝訪日時の発言「無謀」

【ニューヨーク時事】北朝鮮国連代表部は10日の声明で、訪日したグテレス国連事務総長が、8日の安倍晋三首

相との共同記者発表で「完全で検証可能かつ不可逆的な非核化によって、北朝鮮が国際社会の正常なメンバーになることを推進する」と発言したことについて、「無謀」だと反発した。

声明は、6月の米朝首脳会談を「世界が支持・歓迎」する中で、グテレス氏の発言は「驚きだ」と強調。「国連事務総長なら制裁の（維持を求める）合唱をするだけでなく、朝鮮半島の現状に利益となることをすべきだ」と主張した。（時事通信 2018/08/11-07:41）

北朝鮮、国連総長を批判 日本での非核化発言に反発

共同通信 2018/8/11 06:49



安倍首相との会談後、共同記者発表する国連のグテレス事務総長＝8日午前、首相官邸

【ニューヨーク共同】北朝鮮の国連代表部は10日、グテレス国連事務総長が安倍晋三首相との共同記者発表で北朝鮮の完全非核化を求めたことについて「無謀な発言」だと批判する報道声明を発表した。

グテレス氏が国連憲章で定められていない国際社会の「正常なメンバー」の資格に言及したと問題視。「特定の国を喜ばせるために制裁を声高に唱えるのではなく、朝鮮半島の平和と安定のために有益なことをすべきだ」と不満を表明した。

グテレス氏は8日に安倍首相と東京で会談後、「完全で検証可能、不可逆的な非核化により、北朝鮮は国際社会で正常なメンバーになることができる」と述べた。

安保理決議の完全履行を 対北朝鮮、日米防衛相が電話

日経新聞 2018/8/11 0:53

小野寺五典防衛相は10日夜、マティス米国防長官と電話し、北朝鮮情勢で意見交換した。両氏は米朝首脳間の書簡のやりとりなど直近の動きを踏まえ、核を含む全ての大量破壊兵器と弾道ミサイルの「完全かつ検証可能で不可逆的な廃棄」に向け、国連安全保障理事会決議の完全履行を求める方針を確認した。

日本が導入を目指す地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」を巡り、小野寺氏から7月末に選定した搭載レーダーなどについて説明。円滑に導入できるよう、日米で引き続き協力することで一致した。

両氏は、中国による沖縄県・尖閣諸島周辺への領海侵入を念頭に、日本の施政を損なおうとするいかなる一方的な行動にも反対することを改めて確認。引き続き東シナ海の

情勢を注視し、地域の平和と安定のため協力していくとした。

会談は午後9時半から約30分間行われた。

〔共同〕

拘束邦人、事実上の「人質」＝日本に揺さぶりも－北朝鮮専門家

【ソウル時事】北朝鮮国営メディアは、日本人男性の拘束について報じておらず、具体的な状況や容疑は明らかになっていない。専門家は、北朝鮮が拘束男性を事実上の「人質」として、日本政府との「交渉カード」に利用、揺さぶりをかけてくる可能性が高いとみている。

韓国の拉致被害者家族でつくる「拉北者家族会」の崔成竜代表は11日、電話取材に「日本が拉致問題の解決を求めているのに対し、北朝鮮は『解決済みだ』と主張し、過去の清算を訴え、対立している」と指摘。「こうした状況で拘束された日本人男性は、いわば『人質』のようなもので、北朝鮮は、日本政府を対話に誘導するために利用するだろう」という見方を示した。拘束した日本人男性に記者会見をさせ、「日本の情報機関の指示でスパイ活動を働いた」などと「罪の自白」をさせたりすることも考えられるという。

北朝鮮は5月、金正恩朝鮮労働党委員長とトランプ大統領による史上初の米朝首脳会談を前に、信頼醸成措置の一環として、拘束していた米国人3人を解放している。崔氏は、北朝鮮当局が最終的には「正恩氏の配慮」を強調し、「日本政府の要請を受け、赦免する」と発表する展開もあり得るとみている。

韓国のシンクタンク、世宗研究所の鄭成長・研究企画本部長も「北朝鮮は、米国人を『スパイ行為』や『敵対行為』を理由に相次いで拘束した。日本人拘束が事実なら、交渉カードとして使うだろう」と分析。北朝鮮に詳しい別の筋も「北朝鮮がどのような形で拘束を公表するかはケースごとに異なるが、交渉に利用する可能性は高い」と述べた。

（時事通信 2018/08/11-14:43）

北朝鮮で日本人男性拘束＝政府、情報収集急ぐ

北朝鮮で日本人の中年男性1人が現地当局に拘束されたことが分かった。日本政府関係者が11日、明らかにした。政府は拘束の理由や安否について情報収集を急ぎ、解放に向けた交渉も進めるとみられる。

政府関係者によると、男性は旅行目的で中朝国境から北朝鮮に入り、数日前に西部の南浦で拘束されたもよう。別の政府関係者は「邦人保護の観点で対応している」と語った。

安倍晋三首相は北朝鮮への制裁を維持しつつ、日本人拉致問題の解決に向けて金正恩朝鮮労働党委員長との首脳会談に意欲を示している。日本政府内には、今回の拘束は「日本を揺さぶる狙い」との見方があり、日朝関係に影響を与

える可能性もある。

日本外務省は国民に北朝鮮への渡航自粛を求めている。北朝鮮は過去にもスパイ容疑などで日本人を拘束したことがある。（時事通信 2018/08/11-16:27）

北朝鮮当局が日本人男性を拘束 政府、早期釈放呼び掛け 共同通信 2018/8/11 19:31

日本人男性が北朝鮮で今月、現地当局に拘束されたことが分かった。日本政府は情報収集を進めるとともに、北京の大使館ルートなどを通じて早期釈放を呼び掛けている。複数の政府関係筋が11日、明らかにした。日本人拉致問題の解決に向け、金正恩朝鮮労働党委員長との首脳会談実現を目指す安倍晋三首相の戦略に影響を与える可能性もある。

関係筋によると、男性は30代。外国の旅行会社のツアーを利用して北朝鮮に入り、西部の港湾都市・南浦を訪れていたという。過去にも北朝鮮に渡航していたとの情報もある。北朝鮮では日本の元新聞記者が1999年にスパイ容疑で拘束され、約2年間抑留された。

北朝鮮が拘束の日本人男性、旅行会社のツアーで入国か 朝日新聞デジタル 2018年8月11日19時50分



地図

北朝鮮で今月、現地当局に拘束された日本人男性は、北朝鮮西部の南浦（ナムポ）で拘束されていたことがわかった。男性は30代で、海外の旅行会社が企画したツアーで北朝鮮に入ったという。日本政府は外交ルートで北朝鮮側に詳しい経緯の説明を求める方針だ。

複数の日本政府関係者が明らかにした。関係者によると、男性は南浦で複数人で行動中、北朝鮮当局に拘束された。南浦は海軍造船所などがある軍港として知られ、スパイ行為の容疑をかけられた可能性がある。外務省の邦人保護を担う領事局が引き続き情報収集などを行っている。

北朝鮮では1999年、元新聞記者がスパイ容疑で拘束され、約2年間抑留されたことがある。政府関係者は「北朝鮮に対してどういう経緯で何の容疑で拘束しているのか説明を求める必要がある」と話すが、日朝間には国交がないことから、領事面会など通常の邦人保護対応が困難となっているとみられる。

北朝鮮で日本人拘束 政府が情報収集

日経新聞 2018/8/11 19:00

北朝鮮で日本人男性が現地当局に拘束されたことが11

日わかった。複数の日本政府関係者が明らかにした。男性は北朝鮮西部の南浦を訪れたとみられ、日本政府は拘束の理由や男性がどういう状況に置かれているかなど情報収集を急いでいる。北京に置く大使館のルートなどを通じて北朝鮮側に早期の解放を働きかける方針だ。

北朝鮮は過去にもスパイ容疑などで国内にいた日本人を拘束したことがある。安倍晋三首相は日本人拉致問題の解決を目指し金正恩（キム・ジョンウン）委員長との直接会談に意欲を示している。日本人の拘束が今後の調整にどう影響するかは不透明だ。外務省関係者は「政治的な交渉材料にされないようにしないといけない」と語った。

北朝鮮が邦人拘束 30代男性 政府、釈放呼び掛け

東京新聞 2018年8月12日 朝刊



日本人男性が北朝鮮で今月、現地当局に拘束されたことが分かった。日本政府は情報収集を進めるとともに、北京の大使館ルートなどを通じて釈放を呼び掛けている。複数の政府関係筋が十一日、明らかにした。日本人拉致問題の解決に向け、金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長との首脳会談実現を目指す安倍晋三首相の戦略に影響を与える可能性もある。

関係筋によると、男性は三十代。外国の旅行会社のツアーを利用して北朝鮮に入り、西部の港湾都市・南浦を訪れていたという。過去にも北朝鮮に渡航していたとの情報もある。北朝鮮では日本の元新聞記者が一九九九年にスパイ容疑で拘束され、約二年間抑留された例がある。北朝鮮の李容浩（リヨンホ）外相は十一日、シンガポールとイラン歴訪を終え、帰国のため経由した北京国際空港で記者団に日本人男性が拘束された理由を問われたが、一切答えなかった。

日本外務省関係者は、邦人拘束事案について「確認中だ」と述べ、詳細を明らかにしなかった。政府内には「北朝鮮が拘束した男性を対日交渉のカードとして使い、日本に揺さぶりをかけてくる可能性もある」との見方が出ている。日本政府は、全国民に北朝鮮への渡航自粛を要請している。

JNN11日19時09分

北朝鮮が拘束の邦人男性、ツアー旅行の39歳映像クリエイター

日本人が北朝鮮当局に拘束された問題で、男性はツアー

旅行で訪朝した39歳の映像クリエイターで、10日に拘束されたことがわかりました。政府は情報収集を急いでいます。

政府関係者などによりますと、ツアー旅行で訪朝している39歳の映像クリエイターの日本人男性が10日の昼、北朝鮮西部の南浦（ナンポ）で拘束されたということです。男性は複数回訪朝経験があり、去年は、北東部の羅先（ラソン）を訪れていたということです。

「(Q. 日本人がなぜ拘束されたのですか?).....」
(李容浩外相)

男性を知る人は「連絡がとれていない」と話していて、日本政府は男性が拘束された経緯について、情報収集を急いでいます。

南北労働団体、徴用工像に献花 歴史問題で連携の動き

日経新聞 2018/8/11 20:45

【ソウル＝山田健一】韓国と北朝鮮の労働団体の代表らは11日、ソウル市内の竜山（ヨンサン）駅前に設置された日本の植民地支配下で徴用された労働者を象徴する像を訪ねた。聯合ニュースが伝えた。韓国の団体関係者数百人が集まる中、北朝鮮の団体代表らが徴用工像に献花。南北が日本の植民地支配を巡る歴史問題で連携する動きをみせた。

北朝鮮の労働団体「朝鮮職業総同盟」のチュ・ヨンギル委員長らは、南北民間交流の一環で韓国入り。韓国側から「全国民主労働組合総連盟（民主労総）」の金明煥（キム・ミョンファン）委員長らが出迎え、市内で会合を開いた。会合終了後、徴用工像を訪ねた。

聯合によると、金委員長は会合で「南北の労働者がより頻繁に会い、祖国統一の機運を作っていこう」と表明。北朝鮮に対する経済制裁を批判する一幕もあったという。

産経新聞 2018.8.11 22:14 更新

南北の労働団体、ソウルで「統一サッカー」 首脳会談後、初の民間交流…徴用工像に献花も



11日、ソウルで開かれた南北

労働者統一サッカー大会で対戦する選手（共同）

【ソウル＝名村隆寛】韓国と北朝鮮の労働団体による「南北労働者統一サッカー大会」が11日、ソウルのワールド

カップ競技場で行われた。同大会は1999年に北朝鮮の平壤で初開催され今回で4回目で、2015年以来3年ぶり。4月に板門店で開かれた南北首脳会談以降、初の民間団体による交流行事となった。

大会は韓国の韓国労働組合総連盟と全国民主労働組合総連盟が主催。北朝鮮の「朝鮮職業総同盟」の2チームとそれぞれ対戦した。観客らは朝鮮半島に韓国が占拠する竹島（島根県隠岐の島町）を描いた「統一旗」を振り、「われわれは一つ」「祖国統一」などと歓声をあげた。

朝鮮職業総同盟の朱英吉（チュ・ヨンギル）中央委員長らは試合前に、ソウル中心の竜山（ヨンサン）駅を訪問。駅前に設置された、日本の朝鮮半島統治下で「強制された」という「徴用工」の像に献花し、対日問題で共闘の姿勢を示した。

慰安婦問題研究所が開所、ソウル 日韓合意批判の教授が所長に

共同通信 2018/8/10 19:28



「日本軍『慰安婦』問題研究所」の開所式で記者団の質問に答える金昌禄所長。右は鄭鉉栢女性家族相＝10日、ソウル（共同）

【ソウル共同】慰安婦問題を研究する韓国政府の「日本軍『慰安婦』問題研究所」の開所式が10日、ソウルで開かれた。所長には2015年の慰安婦問題を巡る日韓合意に批判的な慶北大の金昌禄教授が就任。日本政府は外交ルートを通じ、合意の理念に反することがないよう韓国側に求めた。

金氏は開所式で、研究所と日韓合意は無関係だと強調。

「日本の慰安婦問題は普遍的な女性の人権と平和の問題で、研究はどの国であってもしなければならない。代表的な被害国の一つである韓国が行うのは当然のことだ」と主張した。

日韓市民団体が靖国神社反対集会 「植民地主義と一体」

共同通信 2018/8/11 17:46

靖国神社の思想に反対する日韓の市民団体が11日、東京都内で集会を開き、安倍政権の歴史認識や改憲についても議論した。約320人が参加し、東京大の高橋哲哉教授（哲学）は「靖国神社は日本の植民地主義の歴史と一体になっ

て発展してきた」と述べた。

ベストセラー「日本軍兵士」の著書がある一橋大の吉田裕特任教授は、太平洋戦争中に死亡した日本兵の6割が餓死だったとの推計や、特攻死、自殺など特異な死が目立ったことを例示。「靖国思想の追悼には顕彰が含まれる。死者を英霊にまつりあげなければ戦えなかった」と話した。

集会では日韓の歌手や韓国の若者グループが歌や踊りも披露した。

「懸案解決が必要」＝日中条約40周年シンポジウム



11日、北京で開かれた日中平和友好条約締結40周年記念シンポジウムで発言する鳩山由紀夫元首相

【北京時事】12日の日中平和友好条約締結40周年を記念したシンポジウムが11日、北京のホテルで開かれた。日中の元政府高官ら出席者からは日中関係改善の流れを歓迎する一方、歴史問題などの懸案解決が必要だという意見が相次いだ。

基調報告を行った鳩山由紀夫元首相は「歴史問題は未解決のまま」と指摘し、一層の関係改善に努めるよう安倍政権に求めた。中国の戴秉国・元国務委員は「中日関係が正常な軌道に戻る時期にあるからこそ、双方が敏感な問題の善処に取り組まないといけない」と述べた。

一方、日本の横井裕駐中国大使は「今後は日中の要人往来や協議が定期的に行われ、日中間の意思疎通がさらに緊密になる」と語り、年内の安倍晋三首相の訪中や来年の習近平国家主席の訪日実現を目指す考えを強調した。シンポジウムは中国政府のシンクタンクである中国社会科学院が主催した。（時事通信 2018/08/11・15:47）

野村万作・萬斎さんが狂言公演＝日中平和条約40周年記念－北京



日中平和友好条約締結40周年記念の狂言公演で狂言の魅力を解説する野村萬斎さん＝10日、中国北京市（主催者提供）

【北京時事】日中平和友好条約の締結から12日で40年を迎えるのを記念して、人間国宝の野村万作さんと、俳優としても活躍する野村萬斎さん親子による狂言の公演が10日夜、北京市内で行われた。

冒頭、萬斎さんは「皆さんと同じ親しみのある人間性を描いている」と狂言の魅力を解説。2020年東京五輪・パラリンピックの開閉会式を総統括することが決まったばかりとあって、「次は東京で見てほしい」と観客に呼び掛けた。



日中平和友好条約締結40周年記念の狂言公演で舞台あいさつする野村万作さん（前列左）と野村萬斎さん（同右）＝10日、北京

この日は、「棒縛」（ぼうしばり）、「川上」（かわかみ）、「茸」（くさびら）の3演目を披露。萬斎さんの長男、裕基さんも出演した。

萬斎さんは、主演した映画「陰陽師」をきっかけに中国でも人気があり、一般販売された約740枚のチケットは30分ほどで完売。北京の日本大使館で11日に開催予定の狂言講座にも、聴講希望者が殺到した。（時事通信 2018/08/10-21:45）

日中首相が祝電交換 平和友好条約署名40年

日経新聞 2018/8/12 5:00

安倍晋三首相と中国の李克強（リー・クォーチャン）首相は日中平和友好条約の署名40年を迎えた12日、祝電を交換した。安倍首相は「両国は地域や世界の平和と繁栄に大きな責任を共有している。手を携えて協力を深め、国際社会が直面する諸課題の解決に貢献し、その期待に応えていきたい」と強調した。年内に訪中し、日中関係を新たな段階に押し上げたい考えを示した。

李氏は同条約を含む日中の4つの政治文書を順守する重要性を指摘した。「互恵協力を深め、意見の相違を適切にコントロールし、中日関係の長期的で健全かつ安定した発展を推進していく」とした。

信頼回復へ「正直、公正」訴え＝石破氏、総裁選出馬を表明－自民

自民党の石破茂元幹事長（61）は10日、衆院議員会館で記者会見し、9月の党総裁選に出馬する意向を正式に表明した。森友・加計学園問題など相次ぐ政権不祥事に批判が高まったことを踏まえ、信頼回復へ「国民本位の政治・行政改革」の断行を公約。安倍晋三首相（63）の政権運

営を念頭に「正直、公正」を訴えた。



自民党総裁選への出馬を表明する石破茂元幹事長＝10日午後、東京・永田町

総裁選への正式な立候補表明は石破氏が初めて。3選が懸かる首相は今月下旬に正式に出馬表明する方向だ。野田聖子総務相（57）は推薦人確保のめどが立っておらず、首相と石破氏の一騎打ちとなりそうだ。

石破氏は会見で人口減少や東京への一極集中、厳しさを増す安全保障環境などの課題を挙げ、「日本の設計図を書き換えるには、政治が国民に誠実で謙虚で正直に勇気を持って真実を語る姿勢が必要だ」と主張した。

「正直、公正、石破茂」と題する公約ビラも発表し、「国民の思いに近い政治」を取り戻すなどと強調。石破政権が実現した場合の100日プランとして「官邸の信頼回復」や「国会運営の改善」などを掲げた。今後30年の社会・経済発展に向けた長期ビジョンを策定する考えも示した。

憲法改正については会見で、参院選挙区の合区解消と緊急事態条項の創設を優先事項に列举。9条改正は「国民の深い理解が必要だ」と述べ、慎重な議論を求めた。9条1、2項を維持して自衛隊根拠規定を設ける首相案に対抗し、戦力不保持の2項削除論も展開。また、持論である地方創生に軸足を置いた「アベノミクス」の修正を主張した。具体的な政策は改めて説明する。

首相の総裁任期満了に伴う総裁選は9月7日告示、同20日投開票となる見通し。石破氏は自身が率いる石破派（20人）と参院竹下派（21人）の大半の支持を取り付けた。今後は他の国会議員や党員・党友の「地方票」の取り込みを図る。（時事通信 2018/08/10-18:44）

石破氏、首相の9条改憲案を批判 「合区解消が優先」

共同通信 2018/8/11 19:01



自民党総裁選への決意を述べる石破元幹事長＝11日、鳥取

県米子市

自民党総裁選への立候補を表明した石破茂元幹事長は11日、鳥取県米子市の国政報告会で、安倍晋三首相が訴える憲法9条への自衛隊明記案では自衛隊の権限や役割が変わらないとして「何も変わらない改憲をしてどうするのだ」と批判した。9条改憲より参院選「合区」の解消や緊急事態条項新設を優先すべきだと重ねて強調した。

先の国会で成立した参院定数を6増やす改正公選法はあくまで緊急避難的だとした上で「合区解消のための改憲を急ぐべきだ」と述べた。緊急事態条項については「いつ首都直下型地震や南海トラフ巨大地震が起こるか分からない」と訴えた。

自民総裁選、石破氏が出馬表明 「正直、公正」を主張
朝日新聞デジタル岩尾真宏 2018年8月10日 16時24分



自民党総裁選への立候補を正式表明する石破茂・元幹事長＝2018年8月10日午後4時24分、東京・永田町の衆院第2議員会館、岩下毅撮影

自民党の石破茂・元幹事長（61）は10日、国会内で記者会見し、9月の党総裁選に立候補する意向を正式に表明した。森友・加計（かけ）学園問題をめぐる安倍政権の対応などを念頭に、「正直、公正」な政治姿勢を打ち出した。連続3選を目指して今月下旬にも出馬表明する見通しの安倍晋三首相（63）との一騎打ちとなる公算が大きく、6年ぶりの選挙戦となる。

石破氏は会見で、「政治・行政の信頼回復100日プラン」をつくり、年内に実行すると表明。①謙虚で正直で国民の思いに近い政治②透明・公平・公正な政治、行政③課題に正面から挑み決断する政治、の3点を「取り戻す」と訴えた。

憲法改正については「優先順位を定めるべきだ」とし、参院選挙区の合区解消や緊急事態条項の創設の必要性を指摘。9条には「国民の深い理解が必要だ」との言及にとどめた。安倍首相の経済政策「アベノミクス」の成果は認めつつ、世代間や地域間で広がる格差是正の必要性を強調した。

石破氏は、鳥取1区選出で連続11回当選。防衛相や農水相などを歴任し、第2次安倍政権で党幹事長、地方創生相を務めた。総裁選への立候補は2008年と12年に続いて3回目。12年総裁選では、党員・党友の地方票で安

倍首相を圧倒したが、国会議員票で逆転を許した。

今回の総裁選では、党内7派閥のうち5派閥が首相支持を決定。国会議員票（405票）の約7割を首相が固めており、石破氏は今回から国会議員票と同数となった地方票の取り込みをねらう。野田聖子総務相も総裁選出馬に意欲を示しているが、推薦人（20人）確保が難航している。（岩尾真宏）

信頼回復叫ぶ石破氏、改憲掲げる首相 自民総裁選の構図
朝日新聞デジタル岩尾真宏 小野甲太郎 2018年8月10日 23時02分



自民党総裁選をめぐる

党内の支持模様

9月の自民党総裁選に、石破茂・元幹事長が名乗りを上げた。党内各派閥が安倍晋三首相支持に雪崩を打つなか、首相の政治手法を批判し、「政治への信頼を取り戻す」と訴える。一方、3選を目指す首相は憲法改正を争点に据え、改憲機運の高まりを期待する。

キャッチフレーズは「正直、公正、石破茂」

「正直、公正、石破茂」。国会内で開かれた石破氏の記者会見場には、そんな総裁選のキャッチフレーズが並んだ。

「私は本日、総裁選に立候補する決意を致しました」。会見冒頭、緊張した表情で約10分間にわたって語ったのは、「政治への信頼の回復」だ。

念頭にあるのが、安倍政権を揺さぶる森友・加計学園問題。朝日新聞社が4、5両日に実施した全国世論調査（電話）では、この問題で首相が国会で「説明責任を果たしていない」との回答は77%に達し、自民支持層でも63%に上った。

石破氏はこうした世論を背に、政治と行政の信頼を回復させる「100日プラン」を公約。省庁の幹部人事を官邸が一元管理する内閣人事局の見直しや国会の公正な運営、国民目線に立った行政改革の必要性を矢継ぎ早に訴えた。

2001年に就任した小泉純一郎首相が始め、11年の東日本大震災を機に菅直人首相が中止した記者団の質問に原則毎日応じる「ぶら下がり」取材の復活にも言及。「民主主義社会のため、自分に気に入らないこと、不都合なことでも取材には極力応じるべきだ」と述べた。この日の会見

も約1時間半に及んだ。

ただ、石破氏を取り巻く党内情勢は厳しい。竹下派の一部が石破氏を支持するものの、党内5派閥が首相支持を表明。計算上は国会議員の約7割を首相が押さえた状態で、石破氏は「数だけが力だと思わない」と強がるものの、石破派内からも「四面楚歌（しめんそか）だ」（幹部）との声がかかる。

こうした中、石破氏が活路を見いだすのが、自身の知名度をテコとした地方票（党員・党友票）の獲得だ。この日の会見では、「国民の評価が党員の評価につながる」と世論を重視する姿勢を強調した。

12年総裁選で石破氏に票を投じた小泉進次郎・筆頭副幹事長との連携にも期待を寄せる。9日夜のテレビ番組では、小泉氏と意見交換の機会をつくりたいと言及。10日の会見では、小泉氏らが打ち出した国会改革について、「若手の方々の提言を尊重していきたい」と秋波を送った。（岩尾真宏）

「なんとしても自分が首相の間に」

10日午後の首相公邸。首相は、総裁選対策の一環で続けている地方議員らとの懇談に参加し、憲法改正についてこう言った。「なんとしても自分が首相の間にやり抜きたい。国民の理解が大事だ。地方議員の先生方の協力がある」

総裁3選で長期政権を視野に入れる首相にとって、憲法改正は悲願。先月の記者会見では、「総裁選の大きな争点となる」と踏み込んだ。

自民党は3月、首相が提案した9条1、2項を残して自衛隊を明記することなどを盛り込んだ憲法改正案を取りまとめた。ただ、石破氏は2項削除論を唱え、首相案を批判する。首相周辺は「総裁選で党内の改憲案の議論に終止符を打つ。安倍案が勝つか、石破案が勝つかだ」と話す。

首相側には、石破氏の掲げる9条2項削除論と、2項を維持する首相案が対立軸になれば、幅広い賛同を得ることを主眼に置いた首相案のほうが支持を得やすいとの算段もある。結果的に、総裁選で首相が目指す地方票・議員票双方での「圧勝」に憲法論争は優位に働くというわけだ。

総裁選を憲法改正の機運を高める契機とするねらいもある。

首相が改憲案を提起したのは昨年5月の憲法記念日。秋の衆院選で大勝し、衆参両院で憲法改正の発議に必要な3分の2の勢力を維持した。今年の通常国会で議論を進め、発議に踏み出すことも視野に入れていた。

ところが、財務省による決裁文書改ざんなどの不祥事が続出し、与野党対立が激化。改憲論議はかき消された。首相側は総裁選で機運が高まれば、秋の臨時国会や来年の通常国会での議論次第で、参院選前の発議も可能になると期待する。

とはいえ、政治決戦となる来夏の参院選に向けて野党との対立の激化が予想されることに加え、与党の公明党すら

早期の改憲には慎重姿勢を崩さず、発議への道のりの厳しさは変わらない。首相に近い議員からも「憲法改正は難しいが、それでも言い続けることで首相の存在感を示すことができる」との声が漏れる。（小野甲太郎）

石破氏「何も変わらない憲法改正をしてどうするのか」

朝日新聞デジタル 2018年8月11日 18時19分



講 演 する

る自民党の石破茂元幹事長＝2018年8月11日午後0時半、鳥取県米子市、岩尾真宏撮影

自民党の石破茂元幹事長（発言録）

（安倍晋三首相が掲げる2項を維持した上での憲法9条への自衛隊明記案を念頭に）何も変わらないという憲法改正をしてどうするのか。違憲という学者がいる、それがどうした。違憲ならなんで自衛隊法、防衛省設置法があるのか。国民は違憲なんて誰も思っていない。9条改正は国民の理解なくして決してできるものではない。改正論者の私であればこそ、そのように思う。

（立候補表明した党総裁選について）この戦いは日本のため、次の時代のために絶対にやらねばならない、絶対勝ち抜かねばならない戦いだ。劣勢です。国会議員の7割は安倍さん支持と言っている。本当に今の政策、今の党のあり方でいいんですか。野党の時、自民党は地方のおかげで成り立っている政党だと思った。自民党は国会議員のための党ではない。党員のための党だ。（鳥取県米子市での講演で）

石破氏「正直で公正な政治を」…総裁選出馬表明

読売新聞 2018年08月10日 20時45分



自民党総裁選への出馬を表明する石破元幹事長（10日午後、国会内で）＝青山謙太郎撮影

自民党の石破茂・元幹事長（61）は10日、国会内で記者会見し、9月の党総裁選への出馬を正式に表明した。一連の政権不祥事を踏まえて「正直で公正な政治」を公約に掲げ、憲法改正では、参院選の合区解消と緊急事態対応を急ぐ考えを示した。

総裁選への出馬表明は石破氏が初めてで、連続3選を目

指す安倍晋三首相（63）は今月後半にも正式表明する。6年ぶりの選挙戦は、両氏の一騎打ちとなる公算が大きい。

石破氏は記者会見で、財政や社会保障、格差解消などの課題を挙げ「日本の設計図を書き換えないといけない」と述べた。そのためには政治への信頼が必要だとして「正直で公正、謙虚で丁寧な政治を作りたい」と訴えた。森友学

かけ
園や加計学園を巡る問題を念頭に、首相との対立軸を強調した形だ。

野田氏、石破氏の出馬を歓迎...自身出馬にも意欲

読売新聞 2018年08月10日 22時26分

野田総務相は10日の閣議後記者会見で、9月の自民党総裁選に石破茂・元幹事長が出馬を表明したことについて、「総裁選が行われない最悪の事態は免れた」と述べ、歓迎した。「仲間との活動を加速化させて追い付けるよう取り組む」として、自身の出馬についても意欲を強調した。

野田氏は政策論争で党の多様性を示すとして、2015年の総裁選でも出馬を目指したが、出馬に必要な推薦人の国会議員20人を確保できず、安倍首相（党総裁）が無投票再選した経緯がある。今回も野田氏の推薦人集めは難航している。

自民総裁選 立候補表明の石破氏「正直で公正な政治を」

毎日新聞 2018年8月10日 21時14分(最終更新 8月10日 21時21分)

自民党の石破茂元幹事長（61）は10日、国会内で記者会見し、9月の党総裁選に立候補すると正式に表明した。森友・加計学園問題などで政権への不信感が高まっていることを念頭に「正直で公正、謙虚で丁寧、そういう政治を作りたい」と述べ、「国民本位の政治・行政改革」を行うと訴えた。正式表明は石破氏が初めてで、3選を目指す安倍晋三首相（63、党総裁）は今月下旬以降に表明する見通しだ。



自民党総裁選への出馬を表明し、記者の質問に答える石破茂元幹事長＝東京都千代田区で2018年8月10日午後4時53分、和田大典撮影

総裁選では6年ぶりの選挙戦となる。野田聖子総務相（57）は推薦人集めに苦心しており、首相と石破氏の一騎打ちとなりそうだ。

石破氏は会見で、人口減少・高齢化の進展や、世代間・地域間の格差固定化を挙げて「日本が直面する大きな課題

に対応するには、日本の設計図を書き換えなければならない」と強調。その上で「国民に、政治に納得と共感、信頼を寄せていただかなければ、書き換えはできない」と続けた。

森友・加計問題を踏まえ、「国民がいろいろな事象について『本当だろうか』と思っているのは事実だ。『今の政権は公正、正直だ』と思ってもらえなければ政治は役割を果たすことはできない」と主張。問題の釈明に消極的な首相の姿勢を間接的に批判した。

憲法改正については、参院選挙区の合区解消と緊急事態条項の創設を優先すべきだとした。9条については「議論から逃げるつもりはない。『自衛隊は必要最小限度の実力組織だから軍ではない』という説明でわかる人はいるのか」と指摘。首相が提起した自衛隊の存在を明記する9条改正案に疑問を呈し、9条2項（戦力の不保持）を削除する持論を堅持するとした。

外交の継続性を重視して首相の総裁3選を支持する声が党内に多いことには「友情と国益は別だ。過去の経験から、外交で日本の国益を実現することには自信を持っている」と語った。会見では「正直、公正、石破茂」と大書した公約ビラも発表。政権運営の基本姿勢をまとめたもので、個別の政策は今後、陣営内で協議して発表する。

石破氏支持の派閥は石破派（20人）と竹下派の参院側（21人）にとどまり、党員票の獲得で挽回を狙う。

石破氏は1986年衆院選で初当選。防衛相、農相、党政調会長・幹事長、地方創生担当相などを歴任。2015年に石破派（水月会）を結成した。総裁選出馬は08、12年に続き3回目。前回15年は安倍内閣の閣僚であることから立候補を見送った。【高橋恵子】

自民総裁選、石破氏が出馬表明 首相と一騎打ちの公算

日経新聞 2018/8/10 16:33 (2018/8/10 22:55 更新)

自民党の石破茂元幹事長は10日、国会内で記者会見し、9月の党総裁選への出馬を正式に表明した。「総裁選に立候補する決意をした。正直で公正、謙虚で丁寧な政治をつくりたい」と述べた。総裁選への立候補を正式に表明するのは石破氏が初めて。3選を目指す安倍晋三首相（党総裁）と石破氏の一騎打ちとなる公算が大きい。

20180810-tx-1 5820390575001 large

石破氏は公文書の改ざんや隠蔽など安倍政権の不祥事を念頭に「国民本位の政治をつくる」と強調。年内をめどに「政治・行政の信頼回復100日プラン」を作成し、実行すると語った。中央省庁の幹部人事を管理する内閣人事局について「見直さなければならない。政権への奉仕ではなく国民に奉仕する観点から人事は評価されるべきだ。首相官邸の信頼回復が必要だ」と訴えた。

憲法改正に関しては「9条については国民の深い理解が必要だ。急ぐものは何かを認識しながら取り組む」と主張。

9条に自衛隊を明記する改正よりも、参院選の合区解消や緊急事態条項の創設を優先課題に挙げた。日本の人口減少が見込まれるなか「財政、社会保障がこのまま持続することはできない」と述べた。

3選を目指す安倍首相とは「徹底的に議論し、国民に誰がどのような主張をしているか理解してもらえる総裁選にしたい」と語った。

石破氏は自ら率いる石破派（20人）と竹下派参院議員の大半の支持を受ける。首相は党内7派閥のうち5派の支持を受け、国会議員票で優位に立つ。国会議員票と同数の地方の党員票を巡る競争が激しくなりそうだ。

総裁の任期は1期3年で、連続3期9年まで。15年9月は安倍首相が無投票再選したため、6年ぶりの選挙戦となる。安倍首相は11日に地元・山口県で事実上の出馬表明をする見通し。出馬を模索する野田聖子総務相は推薦人を確保するめどが立っていない。

産経新聞 2018.8.11 21:42 更新

【自民党総裁選】石破茂氏「何も変わらぬ改憲してどうする」 安倍晋三首相と対決姿勢強める

9月の自民党総裁選への立候補を表明した石破茂元幹事長は11日、鳥取県米子市で開いた国政報告会で「総裁選は参加することに意義があるのではない。次の時代のために何としても勝たねばならない」と訴え、党員票獲得に注力する考えを示した。

また、安倍晋三首相が求める憲法9条への自衛隊明記を念頭に「（自衛隊の権限などが）何も変わらない改憲をしてどうする」と述べ、首相との対決姿勢を強めた。

自民党総裁選、石破氏 出馬表明 改憲 首相を痛烈批判

東京新聞 2018年8月11日 朝刊

記者会見で自民党総裁選への出馬を表明する石破茂氏＝10日午後、東京・永田町で



自民党総裁選への立候補を十日に正式表明した石破茂元幹事長は、安倍晋三首相に対し改憲で議論を挑む姿勢を明確にした。持論の九条改憲を巡り、首相が主導する自衛隊明記案を疑問視。政治姿勢でも首相を痛烈に批判し、対抗心をむき出しにした。（中根政人）

「（自衛隊の実態は）何も変わらないのに、『（自衛隊は）

憲法違反だ』と言う学者がいて、それが教科書に記載されるのを変えることが優先順位が高いとは、私は思わない」

石破氏は記者会見で、自衛隊を明記する改憲が必要とする首相の説明を、真正面から批判した。

首相は七月の記者会見で「（自衛隊）違憲論が載った教科書で、自衛官の子どもたちも勉強しなければならない状況に終止符を打つのは、今を生きる政治家の使命だ」と主張。自衛隊明記は急ぐべき課題という認識を示していた。

九条改憲を巡って石破氏は、戦力不保持を定めた二項を削除すべきだとの考え。同時に、国民の理解を得るために十分時間をかけるとの立場にも立つ。会見では「どうせ理解されないからこれでよい、という考え方を私はとらない」とも話し、世論調査などで賛成論が少ないまま改憲を進める首相の姿勢に異を唱えた。

公約ビラのキャッチフレーズは「正直、公正、石破茂」。森友、加計（かけ）学園問題などで首相らの不透明な国会答弁が批判を浴びたことが念頭にある。会見では「政治が正直に、勇気を持って真実を語る姿勢が大事だ」と強調した。

党運営や国会運営の改善策として「自由闊達（かつたつ）に真実を語り、協議し決断する」「多様な組織と対話・調整し、国会を公正に運営。政府を謙虚に機能させる」などと指摘した。

自民党の改憲4項目	
項目	内容
自衛隊明記	戦力不保持を定めた9条2項を維持し、9条の2を設けて自衛隊を憲法に位置付け
「合区」解消	2016年参院選で設けられた合区をなくし、各都道府県から最低1人の議員を選出
緊急事態条項	大災害時に内閣による政令の制定と国会議員の任期延長を認める
充実教育	教育環境の整備に努める国の義務を追加

「9条改憲優先せず」 石破氏、総裁選出馬を表明

東京新聞 2018年8月11日 朝刊

自民党の石破茂元幹事長（61）は十日、国会内で記者会見し、九月の自民党総裁選への立候補を正式表明した。改憲を巡っては、九条改憲を優先せず、参院選挙区の合区

解消や緊急事態条項新設などを急ぐべきだとの考えを明らかにした。連続三選を目指す安倍晋三首相は憲法に自衛隊を明記する九条改憲を重視しており、立場の違いが鮮明になった。



会見の冒頭で石破氏は「総裁選は憲法も論点になる。優先順位をきちんと定めるべきだ」と指摘。改憲で優先すべきは二〇一六年参院選で導入された「合区」の解消と、大災害に備えた緊急事態条項の新設であり、九条改憲は「国民の深い理解が必要だ」として時間をかけて議論すべきだとの考えを示した。

総裁選向けにまとめた公約ビラでは、安倍政権で森友、加計（かけ）学園問題などの不祥事が相次いでいることを念頭に「何よりも先に政治への信頼を取り戻す」と強調。正直で公平、公正な政治、行政を取り戻すため「信頼回復百日プラン」を策定するとした。詳しい政策は後日発表する。石破氏は衆院鳥取1区選出、当選十一回。党幹事長、防衛相、地方創生担当相などを務めた。

総裁選は九月七日告示、二十日投開票で調整。国会議員票（四百五票）と、党员・党友による地方票（四百五票）の計八百十票で争われる。野田聖子総務相も出馬を目指しているが、推薦人確保が難航し、首相と石破氏の一騎打ちの公算が大きくなっている。（中根政人）

◆石破氏公約ポイント

- ▽謙虚で正直で国民の思いに近い政治
- ▽透明・公平・公正な政治・行政
- ▽課題に正面から挑み決断する政治
- ▽「100日プラン」として官邸の信頼回復など断行
- ▽今後30年の社会・経済発展ビジョン策定

自民 石破元幹事長が総裁選立候補を正式表明

NHK2018年8月10日 17時50分

来月の自民党総裁選挙に向けて、石破元幹事長は10日、国会内で記者会見し、「正直で公正、そして、謙虚で丁寧な政治を作りたい」と述べ、立候補を正式に表明しました。この中で、石破元幹事長は「9月の自民党総裁選挙に立候補する決意をした。私は使命感や責任感を持っており、全身全霊で臨みたい」と述べ、総裁選挙への立候補を正式に表明しました。

そのうえで、森友学園や加計学園をめぐる一連の問題などを念頭に、「正直で公正、そして、謙虚で丁寧な政治をつく

りたい。国民が、いろんな事象に『本当なんだろうか』という思いを持っているのは事実で、国民に『今の政権は公正だね』『正直だね』という思いを持ってもらわなければ、政治は役割を果たすことができない」と述べました。

そして、政治と行政の信頼を回復させるため「100日プラン」を作成し年内に実行する方針を示しました。

また、「実質的に総理大臣を選ぶ選挙でもあるので、徹底的に議論し、党员のみならず、国民にも誰がどのような主張をしているのかを理解してもらいたい」と述べ、政策や政権運営などをめぐって活発に議論したいという考えを示しました。

一方、石破氏は、憲法改正も総裁選挙の論点になるとしたうえで、「自衛隊の明記」よりも、参議院選挙の合区の解消や、大規模災害などに対応するための「緊急事態条項」の新設に優先的に取り組むべきだという考えを示しました。このほか、災害対応や防災対策に一元的にあたる「防災省」の創設が必要だという認識も示しました。

石破氏は、衆議院鳥取1区選出の当選11回で、61歳。これまでに、防衛大臣や農林水産大臣、それに、党の幹事長や政務調査会長などを歴任しています。

今回の総裁選挙で、立候補を正式に表明するのは石破氏が初めてですが、安倍総理大臣が3選に強い意欲を示していて、6年ぶりの選挙戦となる見通しです。

石破茂氏とは

石破茂氏は、衆議院鳥取1区選出の当選11回で、61歳。自民党内では、3年前にみずから創設した石破派を率いています。

鳥取県知事や自治大臣を務めた元参議院議員の石破二郎氏の長男で、銀行員や旧田中派の事務局職員を経て、昭和61年の衆議院選挙で、当時、全国最年少となる29歳で初当選しました。

平成5年に、政治改革法案の取り扱いをめぐって、野党が提出した宮沢内閣に対する不信任決議案に賛成し、自民党を離れ、その後、新生党、新進党を経て、平成9年に自民党に復党しました。

平成14年、第1次小泉改造内閣で、防衛庁長官として初入閣し、有事法制の整備やイラクへの自衛隊派遣に取り組んだほか、福田内閣でも防衛大臣を務め、安全保障政策の論客として知られています。

また、農林水産大臣や、自民党の政務調査会長なども歴任しています。

総裁選挙には、10年前に初めて挑みましたが、立候補した5人のうち最下位で、勝利した麻生副総理兼財務大臣に大差で敗れました。

2回目に立候補した6年前の総裁選挙では、1回目の投票で1位となったものの過半数に届かず、国会議員だけの決選投票で、安倍総理大臣に敗れました。

その後、幹事長や初代の地方創生担当大臣として、安倍政

権を支えましたが、おとしの内閣改造で、安倍総理大臣から閣内にとどまるよう打診されたのを固辞して、閣外で「ポスト安倍」を目指した活動を進めてきました。

「正直・公正」石破氏、総裁選立候補を表明

NNN2018年8月10日 17:37

自民党の石破元幹事長が10日、来月行われる総裁選挙への立候補を表明した。石破氏が打ち出したのは「正直・公正」という政治姿勢だった。

全文を読む

自民党の石破元幹事長が10日、来月行われる総裁選挙への立候補を表明した。石破氏が打ち出したのは「正直・公正」という政治姿勢だった。

石破元幹事長は安倍首相との対決姿勢を鮮明にしている。会見場で配られたピラには「正直、公正」と大きく書かれている。石破氏の周辺は「正直・公正の裏返しはウソつき・えこひいきだ」と話していて、「森友・加計」問題をめぐる安倍首相への批判を強く意識していることがうかがえる。国会議員票で安倍首相に大きくリードされている石破氏だが、地方を回る中で、全国の自民党員票による逆転に手応えを感じたという。

10日に立馬表明した理由について、石破派の幹部は「自民党議員がお盆に、地元の有権者に石破支持を迫られることになる。議員の投票に影響を与えたい」と語っている。こうした石破氏の主張を安倍首相の陣営はどのように受け止めているのだろうか。安倍首相に近い議員は「総理の批判ばかりしていても党内の支持は得られない」と強く反発している。

優位に立っている安倍首相サイドとしては、情勢を変えるきっかけとなりうる石破氏との真っ向からの議論をできる限り避けたい考えで、首相周辺は「テレビ討論の回数も極力減らしたい」と話している。

6年ぶりとなる総裁選に向け、駆け引きが激しくなってきた。

安倍首相「6年前と志変わらず」＝地元で総裁3選に意欲－9条改正を強調



囲む会で講演する安倍晋三首相＝11日午後、山口市

安倍晋三首相は11日、山口市内で開かれた自民党山口県連の会合で講演し、9月の党総裁選に関し「6年前総裁選に出た時のあの志は、みじんも変わるところがない」と

述べ、3選を目指して立候補することに強い意欲を示した。その上で「志を支える気力、体力が果たして十分かを自らに問いながら最終的に判断したい」と語った。

会合では、高村正彦副総裁や河村建夫衆院予算委員長らから出馬への期待が相次いで示された。首相は今年が明治維新150周年に当たることに触れ、「長州出身の政治家として正しい判断をし、皆さまと共に頑張っていきたい」と強調した。

首相は総裁選で争点となる憲法改正について「いよいよ取り組むべき時を迎えた」と指摘。自衛隊違憲論があることに触れ、「この状況に終止符を打つ大きな責任を持っている」と述べ、9条への自衛隊規定追加の必要性を訴えた。

経済運営をめぐり、「(アベノミクスの)3本の矢で挑戦した結果、国内総生産(GDP)は過去最高を記録した」と成果を強調。幼児・高等教育無償化を推進する考えを示し「全ての子どもたちが経済的な理由によって進学できないということのない日本をつくっていきたい」と語った。

外交・安全保障では、特定秘密保護法や安全保障法制を挙げ、「大きな反対に遭ったが、国民を守るために必要な情報のはるかに入るようになった」と主張した。

首相は今月下旬にも総裁選出馬を正式表明する。10日に立馬表明した石破茂元幹事長との事実上の一騎打ちの構図となっている。(時事通信 2018/08/11-19:05)

安倍首相、3選へ実績前面＝石破氏の地方票浸透警戒－自民総裁選



囲む会で氣勢を上げる安倍晋三首相(中央)ら＝11日午後、山口市

安倍晋三首相は11日、地元山口県での講演で、自民党総裁3選に強い意欲を示すとともに、経済を中心に政権の実績を訴えた。今後、地方振興に力点を置く方針も強調した。対抗馬の石破茂元幹事長は、首相の政治手法を批判しながら一般党員らの「地方票」への浸透を図っており、石破氏の動きに対する警戒感が濃くにじむ内容となった。

「大都市だけでなく、地方にもチャンスが出てきている」。首相は山口市で11日に開かれた党県連主催の「首相を囲む会」で、各地の有効求人倍率や最低賃金の上昇、法人税収の増加などを数字を並べてアピール。訪日観光客が増えたことにも触れ、「地方創生の起爆剤にしたい」と語った。

安全保障関連法の成立など外交・安保分野の取り組みにも言及し、「(日米)同盟はその絆を強くした」と胸を張った。

石破氏は10日の出馬表明に当たり、森友・加計学園問題などを念頭に「正直、公正」な政治への転換を主張。地方創生担当相を務めた経歴を基に地方重視の姿勢も示した。11日の鳥取県米子市での会合で「自民党は国会議員のための党ではなく、党员のための党だ」と語るなど、地方議員や一般党员への働き掛けを強めている。

9月の総裁選に向け、首相は405の国会議員票の7割以上を確保したとみられ、優位に立つ。しかし、同じ405票が割り当てられる地方票の動向はなお不透明で、党员の中には「安倍政治」への不満も聞かれる。首相の出身派閥の細田派の細田博之会長は「総裁選では今までも、票を開けてみたら意外な結果が出たことがある」と最後まで手綱を緩めない考えだ。

首相陣営は今後の選挙戦でも、アベノミクスの成果を訴えの軸に据え、石破氏が看板とする地方創生についても対抗して主張していく構え。「現職と挑戦者の最大の差は実績の有無だ」。細田派幹部は、現職の利を最大限に生かす考えを示している。(時事通信 2018/08/11-18:42)

安倍首相、総裁連続3選に意欲 9条改憲「大きな責任」 共同通信 2018/8/11 17:13



地元の山口市で開かれた自民党山口県連の集会であいさつする安倍首相＝11日午後

安倍晋三首相（自民党総裁）は11日、地元の山口市で開かれた党集会で、9月の総裁選について「6年前に出た時の志はみじんも変わることはない。志を支える気力、体力が十分かを最終的に判断していきたい」と述べ、連続3選へ向けた立候補に意欲を表明した。憲法9条に自衛隊を明記する改憲の実現に関しても「大きな責任を持っている」と決意を強調した。

石破茂元幹事長は10日に出馬を正式表明しており、6年ぶりの選挙戦が一騎打ちで展開される見通し。憲法改正や地方創生、政治主導の在り方などが論点となりそうだ。

自民総裁選 安倍首相「志変わらず」 3選に意欲

毎日新聞 2018年8月11日 20時14分(最終更新 8月11日 21時10分)

安倍晋三首相（63）は11日、山口市で開かれた自民党山口県連の会合で「6年前、総裁選に出たときの志はみじんも変わることはない」と述べ、9月の党総裁選での連

続3選に強い意欲を表明した。そのうえで「志を支える気力、体力が十分かを自らに問いながら最終的に判断したい」と述べ、正式な立候補表明は改めて行う考えを示した。

総裁選は石破茂元幹事長（61）との一騎打ちになる見通し。首相は3選を念頭に「いよいよ憲法改正に取り組むときを迎えた」と強調。総裁選の焦点になる自衛隊明記の改憲を巡っては「ほとんどの教科書には（自衛隊）違憲論の記述がある。この状況に終止符を打つ大きな責任を持っている」と述べ、憲法9条第2項（戦力不保持）の削除を主張する石破氏との論戦に自信を示した。



安倍晋三首相

首相は、特定秘密保護法や、集団的自衛権の行使を容認する安全保障関連法、「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ改正組織犯罪処罰法の制定を挙げ、「（野党などの）反対にあったが、こうした法整備の結果、国民を守るために必要な情報ははるかに入るようになり、（日米）同盟は絆を強くした」と成果を訴えた。

首相はまた、来年10月の消費税率10%への引き上げを前提に、増税分の使途を変更して幼児教育を無償化する方針を説明。「子どもたちが経済的な理由で進学できないということのない日本をつくりたい」と述べた。地方経済を支える中小企業の支援に引き続き取り組む考えも示した。

【川辺和将】

自民総裁選 安倍首相 石破氏への対抗意識、随所に

毎日新聞 2018年8月11日 21時20分(最終更新 8月11日 22時56分)

安倍首相は11日、自民党山口県連の会合で9月の自民党総裁選への立候補を事実上、表明した。当初、山口県滞在中には総裁選に踏み込まない考えだったが、石破氏が先に表明したため方針を転換。首相は約25分間のあいさつで、石破氏への対抗意識を強くにじませた。

約300人が出席した会合で、首相は同席した河村建夫衆院予算委員長（山口3区）の方を向きながら「委員長としてまさに公正、公平な判断をいただいている」と切り出し、会場の笑いを誘った。石破氏が10日の記者会見で「正直で公正な政治」を掲げたことを踏まえたと思われる。

そのうえで、学校法人「森友学園」「加計学園」の問題を念頭に「国民の行政に対する信頼を揺るがすさまざまな出来事があった。行政の長として責任を痛感している」と改めて陳謝した。

総裁選で首相の政治姿勢に焦点が当たれば、地方の党員を中心に首相への批判票が石破氏に流れかねないと首相サイドは警戒している。高村正彦副総裁はこの日の会合で、経済、外交分野での安倍政権の実績を評価し、「モリ・カケの問題はあれだけ長く詮索されても、首相や周辺で悪いことは何も出てこなかった。安倍首相の力の一つは反省力だ」と擁護した。首相の実弟の岸信夫衆院議員（山口2区）は「当初は総決起大会と銘打って案内し、安倍首相を囲む会という名前に変わったが、われわれの心は変わらない」と結束を訴えた。

首相周辺も石破氏への批判を強める。麻生太郎副総理兼財務相は11日、北九州市での会合で「派閥を解消しようと言って無派閥の会を作り、石破派を作った」と述べ、石破氏の「言行不一致」を問題にした。

一方、石破氏は11日、鳥取県米子市で講演し「米大統領選のように、憲法・外交・安全保障、経済・財政・社会保障、地方創生、党運営で（それぞれ）3時間、徹底した討論をするのが自民党の責務だ」と提案した。現状では国会議員票で劣勢のため、総裁選の論戦を通じて党員票を掘り起こそうと懸命になっている。【田中裕之、木村敦彦】

産経新聞 2018.8.11 21:07 更新

【自民党総裁選】安倍晋三首相、9条改憲「大きな責任」石破茂氏と一騎打ちへ



山口県入りし、自民党山口県連「安倍晋三内閣総理大臣を囲む会」で演説する安倍首相＝11日午後、山口県山口市（奥清博撮影）

安倍晋三首相（自民党総裁）は11日、山口市で開かれた党山口県連の会合で「6年前に総裁選に出たときの志は、みじんも変わるところはない」と述べ、9月の総裁選に出馬する意向を示した。自衛隊を憲法9条に明記する憲法改正については「大きな責任を持っている」と実現への決意を示した。総裁選をめぐるのは、石破茂元幹事長が10日に出馬を正式表明している。平成24年以来、6年ぶりの総裁選は、首相と石破氏の一騎打ちの構図がほぼ固まった。

首相は連続3選がかかった総裁選について、幕末の志士、吉田松陰の「志定まれば、気盛んなり」などの言葉を引用し「志が定まれば、気力も充実をしてきて、しっかりと、ものごとを間違いなくやり遂げることができる」と述べた。

この日、首相は正式な出馬表明は留保したものの「長州出身の政治家として正しい判断をし、皆さまとともに頑張っていきたい」と強い意欲を示した。

憲法改正については「取り組むべき時を迎えた」と強調した。その上で「自衛隊は違憲だ」とされる状況に終止符を打つことが「自民党の責任であり、今を生きる政治家の責任ではないか。われわれは責任をもって国民にしっかりと説明していきたい」と訴えた。

また、首相は24年12月の第2次安倍政権発足以来、国内総生産（GDP）が過去最高を記録したことや、正社員の有効求人倍率が初めて1倍超となるなど、改善した経済指標を示し、アベノミクスの実績をアピールした。最低賃金の引き上げに関しても「さらに力を入れていきたい」と強調した。

学校法人「森友学園」をめぐる財務省による決裁文書改竄（かいざん）などについても言及し、「決してあつてはならないことだ。二度とこうしたことを起こさないよう、組織を立て直していくことで、責任を果たしていく決意だ」と述べた。

首相は現時点で、すでに党所属国会議員の8割弱にあたる支持を固めている。ただ、24年の総裁選では石破氏が党員票で首相に勝利したことから、首相陣営は党員票の取り込みに力を入れている。

産経新聞 2018.8.11 15:01 更新

【自民党総裁選】安倍晋三首相が出馬の意向「6年前の志はみじんも変わらず」



山口県入りし、自民党山口県連「安倍晋三内閣総理大臣を囲む会」で演説する安倍首相＝11日午後、山口県山口市（奥清博撮影）

安倍晋三首相は11日、山口市内で開かれた自民党山口県連の「安倍晋三内閣総理大臣を囲む会」であいさつし、9月の自民党総裁選について「6年前に総裁選に出た時の志はみじんも変わることはない」と述べ、出馬する意向を示した。

その上で首相は「志を支える気力、体力が十分であるかということを経験しながら最終的に判断したい」と述べるとともに、「長州出身の政治家として正しい判断をし、みなさんとともに頑張っていきたい」と述べた。

産経新聞 2018.8.11 18:18 更新

【自民党総裁選】安倍晋三首相「志支える気力、体力…長州出身政治家として正しい判断する」 挨拶詳報



山口県入りし、自民党山

口県連「安倍晋三内閣総理大臣を囲む会」終了後、昭恵夫人と共に出席者を握手で見送る安倍首相＝11日午後、山口県山口市（奥清博撮影）

安倍晋三首相（自民党総裁）は11日、山口市内で開かれた自民党山口県連の「安倍晋三内閣総理大臣を囲む会」で挨拶し、9月の自民党総裁選について「6年前に総裁選に出た時の志はみじんも変わることはない」と述べ、立候補の意向を示した。挨拶の詳細は以下の通り。

◇

皆さん、こんにちは。内閣総理大臣の安倍晋三です。本日は大変お忙しい中、囲む会に県内各地からご参集をいただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。そして、きょうは県選出の衆参国會議員、村岡（嗣政）知事、ご挨拶をいただいた柳居（俊学）県議会議長はじめ、多くの県議會議員の皆さま、また、自民党籍を持っていたいただいている首長の皆さまにもこうしてお集まりをいただきました。本当に、心が熱くなる思いです。

まず、今年の総選挙でわが党の各候補に対して、力強いご支援をいただいたこと、御礼を申し上げたいと思います。おかげさまで、全員が当選を果たすことができたわけでございます。本当に皆さまのおかげでございました。自民党総裁として御礼を申し上げる次第です。

そして、先の豪雨により、山口県も被害が発生。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆さまにお悔やみを申し上げ、全ての被災者の皆さまにお見舞いを申し上げます。復旧復興に全力を尽くしていくことをお誓いする次第です。

この1年9カ月、国民の皆さまの行政に対する信頼を揺るがすさまざまな出来事がありました。決裁文書の改竄など、決してあってはならないことでございますが、行政府の長としてその責任を痛感しております。二度とこうしたことを起こさないように、改竄の防止を徹底して進め、組織を立て直していくことによって、その責任を果たしていく決意です。

総裁に再度就任してから、もう6年がたとうとしているわけですが、同時に、本年、私が国會議員に初めて当選してから25年が経過したところです。この25年の議員生活の中で、一番うれしかったのはやっぱり最初に当選を果たしたときかなと思っている。ですけど、一番苦しかったとき、何といっても皆さまからご期待をいただきながら、

第1次安倍内閣が1年をもって終止符を打ち、皆さまに本当に失望させてしまったこと、突然の辞任によって、本当に皆さまにもご迷惑をおかけいたしました。私自身も、もうこれで政治生命は終わったかな、こう思いました。まさに私の自信も誇りも砕けちったところですが、帰ってまいりますと。本当に県の皆さまには温かいご声援をいただきました。

そして、県連の皆さまにも会合を持っていただき、本当に今でも覚えているんですが、伊藤博県會議員、当時（党山口県連の）幹事長をやっておられた。「伊藤博文さんも再度、総理大臣になったんだから、安倍さんも頑張れ」。こういっていただき、皆さまから大きな拍手をいただきました。そうおっしゃっている伊藤さんも、聞いている私も「なかなかそんなことは起こらないだろうな」と思いつつ（笑い）、しかし、そう励ましていただいたことによって、だんだん私も自信を回復し、気力を充実させることができた。こう今でも感謝しているところでございます。

そして6年前、総裁選に挑戦することになりました。何といっても民主党政権の3年間。日本はデフレ不況に沈み、そして、連鎖倒産という言葉が日本全体を覆っていました。その結果、日本の外交における存在感が薄くなり、国の国益は失われていました。このままではだめだ。復興遅々としても進まない。今こそ立つべきだ。こういう皆さんの声に推されて、再度挑戦をしたところでございます。

あのとき覆っていたのは、諦めという大きな壁であります。日本の人口は減少していくのだから、もう経済は成長なんかしない、もう成長しなくなっていくんじゃないか。こういうことすら言われていました。

私たちはそう考えませんでした。しっかりとした政策を進めていけば、日本人はやればできる。その後、「3本の矢」で挑戦した結果、経済は11・8%成長し、GDP（国内総生産）は過去最高を記録しました。そして、5年6カ月前の総選挙で、「デフレ不況で失われた国民総所得50兆円を取り戻します」と私はお約束をしました。そんなことできるはずがない、無鉄砲だという批判すら、経済界からはあった。しかし、5年と6カ月が経過しどうなったか。50兆円をはるかに上回る65兆円、私たちは取り戻すことができたのであります。

こういったGDPなどの話をしますと、ちょっと分かりにくいというお話がございます。やっぱり一番分かりやすいのは雇用だと思います。私たちの使命は、働きたい人に働く場所があるという政治を行っていくことではないかと思っています。この5年6カ月の間に私たちは250万の雇用を増やしました。そして、大切な正規の有効求人倍率は初めて1倍を超えた。民主党政権時代は100人の正社員になりたいという人に対して50人分の正規の雇用しかなかった。今は100人の正社員になりたいという人に対して113人分の仕事があるのです。まっとうな社会を私たち

は作り出すことができた。こう思っています。

「まっとうな政治」というスローガンを掲げている某政党がありますが、まっとうな政治とは、このようにしっかりと仕事をつくって、結果を出していくことでないでしょうか。

今年特に4月の就職で、山口県においても高校、大学を卒業して、就職する皆さんの就職率が過去最高のレベルになって、本当にうれしいことであります。若い皆さんが自らの努力、情熱で未来をつかみ取ることができる社会になってきたと思います。

この中で、「そうは言ったって、東京とか大都会と地方はずいぶん格差があって、それ広がっているんじゃないか」という指摘もあります。確かに、地方都市が東京と同じように発展していく、これはなかなか難しいわけですが、しかしあのバブル期とは違って、大都市だけがどんどん伸びていくという成長とは違う形になっています。

先ほど申し上げましたように、雇用においても、正規の有効求人倍率は1・13倍になった。これは平均です。山口県では、これを上回って1・31倍。そしてまた、企業の実績においても、法人関係税収においても、山口県は政権奪還前と比べれば、4割も増えています。地方も確実に、地方の企業も利益を上げているところであります。

そして、国民の所得についても、今年の4月、経団連の4分の3の企業で、3%以上の賃上げが実現しました。中小企業などにおいても、この20年間で最も高い水準の賃上げが行われた。山口県においては平均2%、これは史上最高です。平均2%の賃上げが行われたところであります。

では、格差の問題はどうか。安倍政権は一貫して最低賃金を上げてまいりました。この最低賃金制度がいつできたか。これは岸信介内閣であります。岸信介内閣というと安保条約しかやっていないようではありますが、これ国民皆年金制度、そして最低賃金をつくったのは岸内閣です。

安倍政権においては、初年度に15円あげて、次が16円上がった。そして、17円と思わせつつ、18円。そして25円と上がって、とうとう今度は26円上がりました。これは1991年、あのバブル以来の最高値となっています。この山口県におきましてこの6年間で112円上がっています。平均すると18円強上がっています。民主党政権時代どうだったか。民主党政権時代の3年間、平均は山口県においては7円、7円しか上がっていない。それが平均6年間で18円上がることができた。そしてパートで頑張っている皆さんの時給は過去最高になっています。

つまり、大都市だけではなくて、地方にも大きなチャンスが出てきているのは間違いないだろう。まだまだ不十分だと私も思っています。しっかりと、さらに力をいれたいと思っています。

それと、格差の問題であります。例えば、生活保護世帯の子供たちの進学はどうなっているか。生活保護世帯のお

子さんたちの高校への進学率は、ずっと80%でしたが、今般90%まで上がりました。また、一人親世帯のお子さんの大学の進学率は24%だったんですが、安倍政権になって42%まで上がりました。

困っている人たちに光を当てていくのが政治の役割ですから、しっかり格差を縮めていく、不公平な格差を無くしていく努力を重ねていきたい。そのために、私たちは幼児教育の無償化、そして真に必要な子供たちの高校教育の無償化。消費税を引き上げる財源を活用して、実行していきたい。全ての子供たちが経済的な理由によって進学できない、そういうことのない日本を作っていきたい、こう思っております。

私はいつも正月とお盆のには地元 こうして帰郷させていただいております。いつも帰ってきてやることは、肺にたまった永田町の空気を全部ふーっと吐き出し、ふるさとのすがすがしい空気を胸いっぱい吸い込むことです。そうすると人間がちょっと生まれ変わっているような気持ちになります。山口県は日本海の青い海と、そして山々に囲まれた美しいふるさどです。

日本全国のこのような田園風景を支えているのはやっぱり農林水産業だと思っています。しかし農林水産業は厳しい仕事です。自然と向き合い、時には台風や大雨と戦いながら、荒れる海と向き合いながら仕事をしなければいけない。ですから皆さんの手はごつごつしている。しかし、このごつごつした手で、日本のまさに礎を作り上げてきた。国の基を担ってきた。そしてみんなこの誇りとともに生きてきた。私たちはこの大切な農林水産業を必ず守ってまいります。

しかし、同時にいま農業に携わっている皆さんの平均年齢は66歳を超えてしまいました。守るだけでは守れない。だからこそ私たちがいま攻めの農政を行っています。攻めの農政を行ってきた結果、農林水産物の輸出額は5年連続過去最高、ずっと伸びております。そして今年の、前半の1月から6月までの数値が出ましたが、それも前年を15%上回っています。おそらく6年連続過去最高を記録すると思います。4500億円だったものが8100億円になり、昨年。目標の1兆円は見えてきています。

日本人はやっぱり、やればできるんだらうと思います。最初からあきらめていては決して何も成し遂げることはできない。しかし、日本人はものづくりに優れていますから、しっかり頑張る農家を私たちは支援し、同時に農家の手取りを、漁業の手取りを、林業の手取りを増やしていく。全力を尽くしていきたい。そのことによって、国の基を守っていききたいと思っています。

おかげさまで、40歳以下の新規就農者数は2万人を4年連続超えている。これは統計を取りはじめて、初めて。この統計を取りはじめて、4年連続ということは、この18年で初めてのことです。これからはしっかりと、攻めの農

政を展開し、大切な農林水産業、地域を守っていきたい。こう思っています。

同時にいま、観光も地方にとっては大きな産業の柱になってまいりました。きょう私は故郷の長門市に帰って、お墓参りをします。もう何回かご紹介をさせていただいていますが、故郷・長門には元乃隅稲成神社。いま大西（倉雄）市長が盛んに自慢をしている神社ですが、年間数百人から多くて数千人しか参拝者がいない、まあひなびた、しかし美しい神社なんです。日本海に向かって赤い鳥居がずーっと続いていくという神社なんですね。たまたまCNNが紹介しました。そうすると「インスタ映えする」と評判になりました。かつて数千人しか訪問していなかったこの元乃隅稲成神社に、去年はなんと100万人が訪問しました。そして賽銭箱、入れにくい場所にあるんですが、この賽銭箱になんと25カ国のお賽銭がはいっていて、神主さんもびっくりしたと。

今や買い物中心の旅から、そこでしかできない経験が、ここでしかできない見れない光景を見に行く体験型の旅に変わりつつある。これは本当に地方にとっては大きなチャンスだろうと思います。800万人だった観光客は2800万人を超え、今年は間違いなく3000万人を超えていきます。2020年には4000万人になっていく、これを地方創生の起爆剤にしていきたいと、こう思います。

地方を支える企業は、やっぱり中小企業、小規模事業者が中心です。私が訪問しました小さなメッキ工場。お父さんが従業員を大切にせよ、常にそう言っていた。先代が。その先代の言葉を守った若い社長さんが、中学を卒業し、あるいは高校中退で入ってくる若い従業員、工業高校に通わせました。夜間の工業高校に通わせ、卒業までずっと支援をしました。あの厳しいリーマンショックの時にも、歯をくいしばってみんなの雇用を守った。その工員さんたちもその若い社長の気持ちに伝えようと、行程に工夫を重ね、営業に知恵を絞って生産性を上げる、そして売り上げを増やした。収益も増えた。そして社長はそれに応じて賃金をあげたんです。

これが私は日本の力だろうと思います。この町工場の若い工員さんがこう言っていましたね。「安倍さん、給料が上がったら、発泡酒がビールに変わったよ」。4年前に訪問したんですが、4年後どうなったか。この町工場、小規模事業。ずっと4年連続、賃金を上げ続けたそうです。そして今度、この若い工員さんはこう言いました。「ずっと賃金が上がったから、今は外で飲むようになった」。奥さんがどう捉えているかは別ですが、そういうことになっている。

ここに見られるのはやはり、人材育成の重要性和、生産性を上げていくことの重要性が表れている。政府としてはしっかり、人材育成の、そして生産性を上げていくために支援をしてまいります。「安倍さんそんなことを言ったって、地方は人手不足で大変だよ」という声も聞こえてきそうで

すが、人手確保のために私たちはしっかり支援してまいります。人手不足を補うために生産性を上げる投資をした中小企業・小規模事業者には、例えば、固定資産税などの税制や補助金でしっかりと支援してまいります。

そして、外国人人材については、いわゆる移民政策はとりませんが、外国人人材をしっかりと増やしていく。今まで技能実習という名目だけでしたが、技能実習に加えて、就業を正々堂々とちゃんと加えました。必要な分野には外国人人材に頑張ってもらいたいと思います。そのために、しっかりとした制度を作っていきたいと思っております。

自民党は、立党以来、さまざまな困難な政策に挑んでまいりました。安倍政権でもこの6年間、さまざまな政策に取り組んでまいりました。その中には困難な政策もありました。しかし、それは国民のために必要だとの結論に至れば、みんなで結論に至れば、たじろくことなく、先輩たちがそうであったように、黙々と実行してきたところです。特定秘密保護法、あるいは平和安全法、そしてテロ等準備罪。反対にもあいましたが、こうした法整備ができた結果、国民を守るために必要な情報ははるかに入るようになりました。そしてお互いに助け合うことのできる同盟はその絆を強くしました。これからもしっかりとやるべきことを進めていく、それが自民党の誇りではないか。こう思っています。

そして、いよいよ私たちは憲法改正に取り組むべき時を迎えたと思っております。今年3月、私は内閣総理大臣として防衛大学校の卒業式に出席しました。卒業したばかり、任官したばかりの新しい制服に身をつつんだ、初々しい自衛官たちから私は服務宣誓を受けます。時に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂につとめ、もって国民の負託に応える。この重い宣誓を私は最高指揮官として受けます。つまり彼らは国民を守るために命を懸けることを誓うわけであります。

しかし、今もなお、彼らが合憲だと言い切ることができる憲法学者は全体の2割にしかならない。よって残念ながらほとんどの教科書には、違憲論についての記述がある。憲法違反だとの記述がある。そして彼らの子供たちもこの教科書で学ばなければならない。ある自衛官からこう言われました。お子さんから「お父さん、憲法違反なの」。それ言われてつらかった、というお話を伺いました。私たちはこの状況に終止符を打つ大きな責任をもっている、こう思います。それこそが私たち、自民党の責任であり、今を生きる政治家の責任ではないでしょうか。われわれは、責任を持って国民の皆さまにしっかりと説明をしていきたい、こう思っておる次第です。

今日は皆さまから本当に力強いお話をいただきました。次の総裁選に出馬するということを前提にお話をいただいたところですが、吉田松陰先生がよく言われた言葉に、「志

定まれば、気盛んなり」、こうおっしゃっておられました。そして、また「志のあるところ、気もまた従う」。志が定まれば、気力も充実をしてきて、しっかりとこのことを間違いないくやり遂げることができるという意味だそうですが、私も6年前、総裁選に出た時の、あの志はみじんも変わることはありません。

その上で、その志を支える気力、体力、果たして十分であるかということを自らに問いながら、最終的に判断をしていきたいと思う次第です。同時に、やはり何といっても今年は明治150年ですが、長州出身の政治家として正しい判断をし、皆さまとともに頑張っていきたい、こう思う次第でございます。

首相、総裁3選に意欲 地元で会合「改憲取り組む時」強調

東京新聞 2018年8月12日 朝刊

地元の山口県で開かれた自民党山口県連の会合で、氣勢を上げる安倍首相ら。右は昭恵夫人＝11日午後



安倍晋三首相は十一日、地元の山口県で開かれた党会合で「六年前に総裁選に出た時の志は微塵（みじん）も変わらない」と述べ、九月の党総裁選での連続三選に意欲を示した。自衛隊を憲法に明記する九条改憲に「大きな責任を持っている」と強調。「いよいよ憲法改正に取り組むべき時を迎えた」と総裁選で改憲を訴えていく考えを示した。

総裁選には、石破茂元幹事長が十日に出馬を正式に表明しており、両氏の一騎打ちとなる公算になった。

首相は会合で、九条改憲に関し「教科書に自衛隊違憲論の記述がある。私たちはこの状況に終止符を打つ大きな責任を持っている。自民党の責任であり、今を生きる政治家の責任だ」と訴え。石破氏が九条改憲を優先しない考えを示したのに対抗し、九条優先の姿勢を打ち出した。

この日は正式な出馬表明を見送り、「志を支える気力、体力が十分かと自らに問いながら、最終的に判断したい。長州出身の政治家として正しい判断をしたい」と語った。

森友学園を巡る財務省の決裁文書改ざんなどを念頭に「行政に対する信頼を揺るがすさまざまな出来事があった。行政の長としてその責任を痛感している」と表明。「再発防止を徹底して進め、組織を立て直していくことで、その

責任を果たしていく」と話した。

首相 問われる「1強」5年8カ月 「森友・加計」疑念晴れず

東京新聞 2018年8月12日 朝刊

九月の自民党総裁選は十一日、安倍晋三首相が連続三選に意欲を表明した。石破茂元幹事長との一騎打ちとなる公算の選挙戦では、第二次安倍政権が二〇一二年十二月末に発足して以来の「安倍一強の五年八カ月」そのものが問われる。（村上一樹、金杉貴雄）

「続投に向け、一致団結して頑張ろう!」。首相の地元・山口県で開かれた十一日の会合は、首相の支持者約三百人が三度こぶしを突き上げ、さながら総裁選への決起集会の様相となった。高村正彦副総裁は「あと三年間よろしくお願ひする」と首相の外交、経済での実績を持ち上げた。

首相はあいさつで、第二次安倍政権の経済面の「功績」を自画自賛。「GDP（国内総生産）は過去最高」「正規の有効求人倍率は一倍を超えた」「生活保護世帯の進学率も上がった」などと並べ立てた。

「アベノミクス」は曲がり角を迎えた、と指摘される。

「異次元の金融緩和」は、超低金利による経済への副作用の長期化が懸念されている。経済を好転させ消費税増税の環境を整え、財政再建する一はずが、税率10%への引き上げを二度延期してきた。財政再建は遠のき、負担は将来世代に先送りされている。

安倍政権5年8カ月の主な出来事			
2013	3月	経済	首相が環太平洋連携協定(TPP)交渉参加表明
	7月	経済	日銀総裁に黒田東彦氏。大規模な金融緩和開始
	7月	政治	参院選で圧勝
14	12月	政治	特定秘密保護法の採決を強行、成立
		政治	首相が靖国神社を参拝
	4月	経済	消費税率を8%に引き上げ
15	7月	政治	集団的自衛権行使容認の憲法解釈変更を閣議決定
	11月	経済	消費税率の10%への引き上げ延期。衆院解散、与党圧勝
	9月	政治	安全保障関連法の採決を強行、成立
16	10月	政治	沖縄県名護市辺野古の米軍新基地で本体工事着手
	6月	経済	首相が消費税増税の再延期を表明
	7月	政治	参院選で勝利。改選勢力が衆参ともに3分の2以上に
17	2月	政治	森友学園問題が浮上
		政治	首相がトランプ米大統領と初の首脳会談。「ゴルフ外交」も
	5月	政治	首相が9条改憲などを提案し「2020年施行を目指す」と表明
18		政治	加計学園問題で「総理のご意向」などと記した文書判明
	6月	政治	「共謀罪」法の採決を強行、成立
	7月	政治	自衛隊日報隠ぺい問題で福田防衛相が辞任
	9月	政治	首相が臨時国会冒頭に衆院解散。野党分裂で与党圧勝
	3月	政治	森友学園問題で財務省による決裁文書改ざんが暴露
		政治	自民党が4項目の改進黨案を決定
	5月	政治	加計学園問題で、首相と学園理事長が獣医学部新設計画を話していたことを示す文書の存在が判明
	6月	政治	「働き方」関連法の採決を強行、成立
	8月	政治	首相が核兵器禁止条約に参加しないことを再度表明

首相は、数々の法律を野党の反対を押し切って強引に成立させたことも「実績」に挙げた。特定秘密保護法、安全保障関連法、「共謀罪」法の成立に触れ「必要だと結論に至れば、たじろぐことなく実行してきた」と胸を張った。

改憲にも、重ねて意欲を示した。同時に安倍政権は憲法を軽視するような姿勢も目立つ。憲法上許されないと歴代政権が判断してきた集団的自衛権の行使を容認し、憲法の規定に基づく野党の臨時国会開会要求に応じてこなかった。

首相自身あいさつで認めたように、政治や行政への国民の不信感は深刻だ。森友・加計問題では、発覚から一年半を経ても国民の疑念が晴れていない。首相と加計学園理事長の面会が記された文書など「証拠」が次々に明らかになったのに、首相らの不可解な説明が続いているからだ。

総裁選は、首相が国会議員の七割超の支持を確保。注目は、より国民の感覚に近い黨員などによる地方票。支持の行方次第で、政権への評価が見えてくる。

産経新聞 2018.8.11 05:00 更新

【単刀直言】西村康稔官房副長官「安倍首相の存在は日本の強み」「憲法改正、公明・維新と協議を」



西村康稔官房副長官＝首相官邸（春名中撮影）

撮影）

昨年8月に官房副長官に就任しました。就任にあたり、安倍晋三首相には「私は小泉（純一郎元首相）さんに官房副長官をさせてもらい、非常によい経験になった。西村君にとっても、よい経験になる。しっかり支えてほしい」と声をかけられました。

9月には自民党総裁選が行われます。首相は西日本豪雨の被災地対応に全力を挙げているところですが、総裁選への対応はしかるべき時期に判断されると思います。菅義偉官房長官「私は派閥は作らない!」「安倍首相の強みは決断力」

私は、首相に引き続き政権を担っていただきたいと思っています。副長官としてこの1年間、首相の外国訪問に6回同行し、日米首脳会談は電話を合わせて21回、日韓首脳会談も同様に12回同席しました。

首相のすごいところは、世界のどの首脳とも率直に腹を割って話ができることです。外国首脳やその国に関する細かいエピソードをよく覚えていて、当意即妙のやりとりをして関係を築いています。首相は世界のリーダーとして、各国首脳から信頼され、頼りにされているのです。北朝鮮問題や貿易問題など、世界が混迷を深めているだけに、日本にとって首相の存在は強みです。

トランプ米大統領との関係は象徴的です。北朝鮮対応について矢継ぎ早に質問してくるトランプ氏に対し、首相は

丁寧の説明しています。首相は圧力をかけ続ければ、北朝鮮の方から対話を求めてくると言ってきましたが、2月の平昌五輪以降、実際に北朝鮮が対話に傾くと、トランプ氏は「シンゾーの言う通りになったな」と言っていました。

北朝鮮をめぐるのは、核、ミサイルに加え、日本にとっては何よりも拉致問題があります。拉致問題を解決できるのは首相しかいない。首相も拉致問題は安倍政権の間に必ず解決するという強い決意を持って、あらゆるチャンスを見逃さず取り組む意向です。私もそれを支えたい。拉致被害者の有本恵子さんは私の地元、兵庫県出身ですし、ぜひ解決したい。

貿易問題では、トランプ氏は手ごわい交渉相手ですが、ここでも首相とトランプ氏の関係がカギになります。

6月、カナダで開かれた先進7カ国（G7）首脳会議（サミット）の首脳宣言には「保護主義と闘う」という文言が盛り込まれました。首脳宣言の文言を詰める際には、米国と他の5カ国が対立しましたが、トランプ氏は何度も首相に意見を求め、「シンゾーの言うことに従う」と言って、合意できました。内閣府副大臣時代に環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉に携わった身として、貿易問題でも首相を支えていきたい。

こうした実績と確固たるビジョンがあるからこそ、欧州、中東の各国首脳が首相に「話を聞きたい」と求めてきます。ロシアとの領土問題、平和条約締結もプーチン大統領との信頼関係のもとで首相にしかできない。ぜひ在任中に実現してほしい。

安倍政権が5年7カ月の安定政権となっている理由の一つは危機管理です。例えば菅義偉官房長官は、北朝鮮がミサイルを撃つと誰よりも早く官邸にきて、対応に当たっています。冗談で「スーツで寝ているんじゃないか」と言う人がいるほどです。見習いたいと思います。

日本が直面する課題は山積しています。経済最優先で、デフレ脱却の道筋を付けなければなりません。国民に消費税率10%への引き上げもお願いしつつ、経済を成長軌道に乗せていく。AI（人工知能）やロボットを活用しつつ、地方をどう活性化するかも大事です。

憲法改正は戦後70年を経てようやくチャンスがきた。自民党の改憲案4項目（自衛隊明記、緊急事態条項の創設、参院選「合区」解消、教育の充実）をブラッシュアップして、公明党や日本維新の会とも話をするタイミングにきていると思います。国民投票につながるよう、国会の憲法審査会での議論に期待します。（沢田大典）

安倍首相 総裁選3選に意欲 憲法改正目指す

NHK2018年8月11日 20時57分

地元、山口県を訪れている安倍総理大臣は自民党山口県連の会合で、『「まっとうな政治」とは、しっかり仕事をして結果を出していくことだ』と述べ、これまでの政権運営

の実績を強調し、来月の自民党総裁選挙での3選に意欲を示しました。また、安倍総理大臣は自衛隊の存在を憲法に明記するため憲法改正を目指す考えを重ねて示しました。この中で、安倍総理大臣は有効求人倍率が1.6倍を超えるなど高い水準を維持していることや最低賃金が平成14年度以降最も大きく引き上げられたことなどに触れたうえで、『「まっとうな政治」とは、このようにしっかり仕事をして結果を出していくことだ』と述べ、これまでの政権運営の実績を強調しました。

そのうえで、安倍総理大臣は「6年前の総裁選挙に出た時のあの志はみじんも変わることはない。その志を支える気力、体力は果たして十分であるかをみずから問いながら最終的に判断していきたい」と述べ、来月の自民党総裁選挙での3選に意欲を示しました。

また、安倍総理大臣は「いよいよ憲法改正に取り組むべき時を迎えた。教科書には自衛隊が憲法違反という記述があり、私たちはこの状況に終止符を打つ大きな責任を持っている」と述べ、自衛隊の存在を憲法に明記するため憲法改正を目指す考えを重ねて示しました。

安倍総理大臣は11日から14日までの予定で山口県に滞在し、国政報告会やみずからの後援会の関係者との会合などに出席することにしています。

安倍総理が出馬に強い意欲「6年前と志変わらない」 ANN2018/08/11 19:05

地元の山口県を訪問中の安倍総理大臣は、支持者らを前に「6年前と志は変わらない」と述べ、来月に迫る自民党総裁選挙での再選に向けて強い意欲を示しました。

安倍総理大臣：「6年前に総裁選に出た時の志は、みじんも変わることはない。そのうえで志を支える気力、体力が果たして十分か、自ら問いながら最終的に判断していきたい」

また、自衛隊に違憲論があることについて「この状況に終止符を打つ責任がある」と強調し、「戦力の不保持」を規定する2項を維持したまま3項に自衛隊を明記する憲法9条の改正に強い意欲を示しました。すでに立候補を表明している石破元幹事長は、2項を削除して自衛隊を「戦力」に位置付けるべきと主張しています。安倍総理としては総裁選で憲法改正を争点とすることで再選された後の改正論議に道筋を付ける狙いもあります。

安倍首相3選に向け意欲 自民党総裁選 NNN2018年8月11日 18:26

9月の自民党総裁選挙をめぐり、安倍首相は11日、第二次安倍政権が発足した6年前と「志はみじんも変わることはない」と述べ、3選に向けて意欲を示した。

全文を読む

9月の自民党総裁選挙をめぐり、安倍首相は11日、第二

次安倍政権が発足した6年前と「志はみじんも変わることはない」と述べ、3選に向けて意欲を示した。

安倍首相「私も6年前、総裁選挙に出た時の、あの志はみじんも変わるところがありません。しかし、その上で、この志を支える気力、体力、果たして十分であるかということ、自らに問いながら、最終的に判断をしていきたいと、こう思う次第でございます」

また、憲法9条を改正して自衛隊を明記することについて「大きな責任を持っている」と述べ、改めて決意を強調した。安倍首相は今月末にも正式に総裁選への立候補を表明する考え。

一方、10日に立候補を表明した石破元幹事長は、11日の講演で安倍首相への対抗心をあらわにした。

自民党・石破元幹事長「国会議員の7割が安倍さん支持、そのように言っています。本当に今の政策でいいんですか。今の党のあり方でいいんですか」

石破氏は、安倍首相との対決姿勢を鮮明にすることで、安倍政権への批判票を取り込みたい考え。

また、立候補を目指す野田総務省も「精いっぱいできる限り歩んでいきたい」と述べ、立候補に必要な国会議員の推薦人20人確保に全力を尽くす考えを強調した。

安倍総理が地元で出馬意欲表明 石破氏は支持訴え ANN2018/08/11 17:51

安倍総理大臣は地元・山口にお国入りし、来月に迫る自民党総裁選に向けて自らの出馬に意欲を示しました。

安倍総理大臣：「6年前に総裁選に出た時の志は、みじんも変わることはない。志を支える気力、体力が果たして十分か、自ら問いながら最終的に判断していきたい」

そのうえで、自衛隊に違憲論があることについて「この状況に終止符を打つ責任がある」と強調し、自衛隊を明記した形での憲法9条の改正に強い意欲を示しました。

自民党・石破元幹事長：「総裁選挙は勝たねばなりません。参加することに意義があるわけではない。なんとしても勝たねばならない選挙だと思っております」

一方で、10日に正式に出馬を表明した石破氏も地元・鳥取に入って支持を訴えました。石破氏は、憲法改正などの政策を進めていくうえで「政治は正直で公正であってこそ、初めて国民の理解が得られる」と強調しました。

産経新聞 2018.8.12 05:00 更新

【主張】首相も「出馬」表明 9条改正大いに論じ合え

安倍晋三首相が地元山口県の会合で「6年前に自民党総裁選に出た時の志はみじんも変わることはない」と述べた。

事実上の出馬表明である。10日に表明した石破茂元幹事長との一騎打ちとなる構図がはっきりと見えてきた。党内の幅広い支持を得ている首相の出馬は当然視されていたが、「3選」に向けて大いに政策論議を戦わせてほしい。

首相が外交・経済の基本路線を継続するとしても、政策の修正や強化の必要性について最大与党が定期的に検証することは欠かせない。石破氏との真正面からの議論を国民に示す必要がある。

注目すべきは、首相が憲法9条に自衛隊を明記する改正について「大きな責任を持っている」と語ったことだ。石破氏も同じく9条改正を主張するが、戦力不保持を定めた2項の削除を求める点で首相とは立場が異なっている。

9条改正について首相は「勇気を持って説明していきたい」と訴えたが、石破氏は「優先順位が高いとは思わない」と述べている。それでは期待する正面からの論戦とはなりにくい。

なぜ自衛隊を明記すべきかという根本的な意義を含め、この機会に両氏には、国民の前で分かりやすく論じ合ってもらいたい。

その前提として、北朝鮮や中国の動向など安全保障環境の大きな変化や、トランプ米政権との間での日米同盟のあり方についても認識を明らかにしてほしい。

保護主義を強める米国とどう付き合っていくか。自由貿易や民主主義の価値観が死活的に重要な日本にとっては文字通り、かじ取りにかかわる問題である。

首相は森友、加計問題にも触れて「再発防止を徹底的に進める」と語った。石破氏がこの問題を念頭に「正直、公正」を掲げたことも意識したのだろう。

佐川宣寿前国税庁長官の虚偽答弁や財務省の公文書改竄（かいざん）などは行政に対する国民不信を募らせた。問題を長引かせ、国会審議の停滞を招いた面も大きい。石破氏の問題提起を受け止め、論争を機会に行政の立て直しや信頼の回復を図らなくてはならない。

首相の政権基盤が強固となるなかで、党内の政策論議が停滞するきらいもあった。両氏の論争に連動し、支持する議員らも内外の政策を吟味し、論争を盛り上げることに腐心してもらいたい。

玉木氏が出馬表明＝国民民主代表選



記者会見で9月の代表選への出馬を表明する国民民主党の玉木雄一郎共同代表＝10日午前、東京都千代田区

国民民主党の玉木雄一郎共同代表は10日午前、党本部で記者会見し、9月の党代表選について「引き続き責任を果たしていきたいという決意を固め、立候補することを決めた」と述べ、出馬を表明した。代表選は22日に告示され、9月4日の党大会で投開票される。津村啓介衆院議員も出馬に意欲を示している。

玉木氏は、来年の参院選での党勢拡大を目指し、共産党を除く他の野党に統一会派結成や「共同選対」の設置を呼び掛ける方針を表明。「私自身が論戦の先頭に立って政権との対決姿勢を強めていきたい」と強調した。

玉木氏は旧希望の党代表として旧民進党との合流を主導。5月の国民民主の結党と同時に、大塚耕平氏と共に共同代表に就任した。大塚氏は代表選に出馬せず、玉木氏を支援する。（時事通信 2018/08/10-11:05）

玉木氏、国民民主の代表選出馬を正式表明

NNN2018年08月10日 21時04分



国民民主党の代表選への出馬を表明した玉木雄一郎共同代表（10日午前10時13分、東京都千代田区で）＝吉川綾美撮影

国民民主党の玉木共同代表（49）は10日、党本部で記者会見し、「党を育て強くする役割を担っていきたい」と述べ、党代表選（22日告示、9月4日投開票）への出馬を正式に表明した。

現執行部に批判的な津村啓介衆院議員（46）も13日に記者会見を開き、出馬を表明する方針だ。選挙戦になれば、党勢拡大策や野党連携の進め方が争点となる。

玉木氏は記者会見で、来年夏の参院選について、「野党全体の議席増を最大の目標に党運営に取り組む」と意欲を示した。立憲民主党など他の野党に対し、国会で行動を共にする統一会派の結成や「共同選対」の設置を呼びかける考えも明らかにした。共産党との協力については「考えていない」と否定した。

国民民主代表選 「対決も解決も」出馬表明の玉木氏

毎日新聞 2018年8月10日 19時01分（最終更新 8月10日 19時01分）

安倍政権との対決色強める路線へ転換の考え示す

国民民主党の玉木雄一郎共同代表（49）は10日、党本部で記者会見し、代表選（22日告示、9月4日投開票）への立候補を正式表明した。5月の結党以来主張してきた「対決より解決」路線について「『対決しない』と誤解されるところもあり、少し修正したい。対決も解決もする。対決して政権を取って代わらないといけない」と述べ、安倍政権との対決色を強める路線へ転換する考えを示した。

立憲民主党など他の野党と一線を画す「解決」路線を巡っては党内に不満があり、出馬に意欲を見せる津村啓介衆院議員（４６）も「対決や解決という言葉をもてあそんでいる」などと批判。玉木氏としては、路線対立が代表選で争点化されて亀裂が深まるのを避ける狙いがある。

玉木氏は、党の支持率が上がらない現状について「責任を痛感している。党勢拡大が私の果たすべき責任だ」と強調。来夏の参院選の候補者調整を行う共同選対の設置や、国会の統一会派結成を各野党・会派に呼びかけ、連携路線へかじを切ると説明した。ただ共産党に対しては「基本的な考え方が違う」と、こうした呼びかけはしない考えも示した。

一方、大塚耕平共同代表は１０日、代表選に出馬せず、玉木氏を支援する意向を記者団に示した。大塚氏は「党勢拡大と野党連携はどの候補にとっても至上命題で、代表選の争点は路線選択ではない」とも語り、玉木氏に歩調を合わせた。

津村氏は１３日に立候補を表明する予定で、国会議員１０人の推薦人集めを急ぐ。党内ではさらに現執行部に批判的な一部議員が出馬を模索する一方、執行部支持派には玉木氏の無投票当選を望む声もある。【立野将弘】

国民・玉木氏 立民に統一会派提案へ 「対決より解決」修正

日経新聞 2018/8/10 17:00

国民民主党の玉木雄一郎共同代表は１０日の記者会見で、党代表選（２２日告示―９月４日投開票）への立候補を表明し、立憲民主党など他の野党に衆参の統一会派の結成を呼びかけた。来年の参院選を見据え、野党の共同選対の設置も提案した。

玉木氏ら執行部は先の通常国会で「対決より解決」を掲げ、立民など野党の抵抗路線とは一線を画してきた。玉木氏は出馬会見で（安倍政権と）対決しないと取られることもあったので修正したい。我々は解決もするし対決もする」と述べた。

産経新聞 2018.8.10 18:34 更新

憲法改正「阻止」で川崎市教委後援取り消しの教科研大会、開幕



教育科学研究会（教科研）・全国大会の

開会式であいさつする佐貫浩委員長＝１０日、川崎市（外崎晃彦撮影）

川崎市教育委員会が、憲法改正「阻止」を掲げるのは「政治的中立性を欠く内容」だとして後援を取り消した「教育科学研究会（教科研）・全国大会」が１０日、開幕した。開会式には全国の教職関係者ら約２５０人が参加した。

佐貫浩委員長は参加者に向けて「（教委に対し）説明不足もあり、事業の性格が伝わらなかった」と取り消しの経緯を説明。「これを教訓に体制を強化したい」と述べた。

東京新聞の望月衣塑子記者が「進む政治の私物化 瓦解（がかい）する官僚たち～安倍政権とメディア～」をテーマに講演。憲法改正議論に言及し、「人類が理想や英知を結集した９条２項を無力化するものだ」と改正反対の立場を強調した。

佐貫委員長は開会前、産経新聞のインタビューに応じ、「政治的中立性を損なう内容ではなく、市教委の後援取り消しは不当だ」と見解を述べた。

大会は同市中原区で１２日まで行われ、憲法改正「阻止」をうたうフォーラムや「安倍（晋三）政権下の教育政策と課題」といったテーマの分科会を開く。

島根３号機、審査申請＝建設中原発で２基目－中国電

中国電力は１０日、建設中の島根原発３号機（松江市、出力１３７万３０００キロワット）について、運転開始の前提となる新規制基準への適合性審査を原子力規制委員会に申請した。建設中原発の申請は、２０１４年１２月の電源開発大間原発（青森県大間町）に続き２基目。

中国電は１３年１２月に島根２号機の審査を申請している。１０日の申請後の取材に、北野立夫電源事業本部副本部長は「並行での審査は難しいと聞いている。２号機を優先し、それを踏まえ３号機の審査に入るようお願いしたい」と話した。

中国電は２号機の審査過程で、敷地の南約２キロにある宍道断層の評価を見直し、想定される地震の揺れ（基準地震動）を申請時の６００ガルから８２０ガルに上方修正した。隣接する３号機でも、基準地震動を８２０ガルとした。

（時事通信 2018/08/11-00:43）

新規 島根３号機申請 福島事故後２基目、同型炉

東京新聞 2018 年 8 月 10 日 夕刊

中国電力は十日、建設中の島根原発３号機（松江市）の新規稼働に向け、原子力規制委員会に審査を申請した。二〇一一年の東京電力福島第一原発事故当時に建設中だった原発が審査を申請するのは、電源開発大間原発（青森県）に続き二例目。全国で唯一、県庁所在地にある原発の島根３号機は本体の工事がほぼ終わり、隣接する２号機の審査が先行していることから、大間原発より早期に審査が進むとの見方がある。

島根原発3号機（手前）＝松江市で



島根3号機は福島第一原発と同じ沸騰水型炉で、審査に正式合格しているのは東電柏崎刈羽6、7号機（新潟県）だけ。審査の進捗（しんちよく）次第では、原発事故後、新たに稼働する初の原発となる可能性があるが、島根県など立地自治体から事前了解を得る必要があり、実際の運転開始時期は見通せない。

中国電の北野立夫常務は審査の申請書を提出後、報道陣に「既存原発が再稼働する流れの中で、3号機も（新規稼働に向け）申請可能だと考えた」と強調した。

島根3号機を巡っては、九日に島根県の溝口善兵衛知事が、審査申請を了解すると中国電に伝えた。既に松江市も容認しており、必要な「立地自治体の事前了解」が出そろい、中国電は申請を十日にすると表明。半径三十キロ圏内の鳥取県なども容認する考えを示している。

島根3号機は、出力が国内最大級の百三十七万三千キロワット。中国電によると、〇六年に本工事を始め、九割以上を終えていたが、震災と原発事故の影響で運転開始の見通しが立たなくなった。一三年に原発の新規制基準が施行され、地震や津波、炉心損傷事故への対策強化を求められた。

島根3号機を巡る経過	
1997年	中国電力が島根1、2号機が3月 立地する島根県と旧鹿島町（現・松江市）に3号機設置申し入れ
2000年	島根県と旧鹿島町が設置を事前了解 9月
06年10月	中国電が本工事に着手
11年3月11日	東京電力福島第一原発事故
18年5月22日	新規稼働に必要な原子力規制委員会への審査の申請について、中国電が松江市と島根県に事前了解を求め申し入れ。原発30km圏内の周辺自治体には報告
7月3日	松江市の松浦正敬市長が申請を了解。8月上旬までに30km圏内の周辺自治体も全て容認
8月7日	島根県の溝口善兵衛知事が了解を表明
10日	中国電が規制委に審査を申請

SUGIZO さん、脱原発へ活動 「核のごみを残すのは無責任」

共同通信 2018/8/11 17:42



インタビューで原発や難民問題について語った SUGIZO さん

人気ロックバンドの「X JAPAN」、「LUNA SEA」のギタリストで、脱原発などにも取り組む SUGIZO さんが「（原発から出る）核のごみを残すのは無責任。次世代に危険をなすり付けるのは、この時代の恥だ」と話した。11日までに東京都内で共同通信のインタビューに応じた。

脱原発や難民支援に関する活動を始めて 20 年。再生可能エネルギーによる水素燃料の電気を使ったライブを開催したり、海外の難民キャンプで楽器を演奏したりしてきたという。

「音楽や芸術は社会のうねりとともにある。自分が良いと思うことを誇りを持ってやっていく」と主張した。

太平洋戦争 徴用船「まるで特攻」 92歳の元乗組員

毎日新聞 2018年8月11日 08時00分(最終更新 8月11日 08時00分)



徴用船に乗船していた吉田香一郎さん＝大阪府吹田市で2018年8月2日、梅田麻衣子撮影

撃沈3度、死と隣り合わせ 仲間、いまだ海の底

太平洋戦争では、国家総動員体制の下、兵隊や武器などの輸送のために民間船が徴用され、多くの船員が命を落とした。徴用船の乗組員だった吉田香一郎さん（92）＝大阪府吹田市＝も、連合国側の攻撃によって乗っていた船が3度沈没し、多くの仲間を失った。「ほとんど丸腰で危険な海に出され、まるで特攻に行くようだった」と振り返る。

吉田さんは戦時中、日本郵船で経理関係の仕事をしていました。しかし、戦局の悪化で船員が不足し、1944年1月に海上勤務を命じられた。当時はまだ18歳。戸惑いはあったが、「同じ年ごろで軍隊に取られている人もいるのだから、仕方がない」と受け入れた。

待っていたのは、軍人と同じように死と隣り合わせの仕事だった。海へ出るようになって約8カ月後。門司港（現北九州市）から中国の上海に兵隊を運んでいたところ、潜水艦の魚雷を2発受けて船が沈んだ。救命艇で命からがら脱出すると、すぐに別の徴用船での勤務を命じられた。出航の度に不安になったが、拒否はできなかった。

2度目の沈没は「九死に一生」の体験だった。45年2月、重油を載せてシンガポールから日本へ航行中、ベトナム沖で、魚雷攻撃を受けた。衝撃と同時に船体が傾き、甲板にいた吉田さんは海に放り出された。

板きれにしがみついて南シナ海を漂った。一緒に浮いていた仲間たちは次々に力尽きていった。「眠ったらおしまいだ」。自分に言い聞かせて何とか意識を保ち、約10時間後に日本軍の艦艇に救出された。乗組員のほぼ半数の29人が、船と一緒に海に沈んだ。

終戦の1カ月ほど前には、関門海峡に仕掛けられていた機雷に船が触れて沈没。もはや安全な海域などなくなっていた。だから、終戦を知った時には心底ホッとした。「これで死ぬこともなくなったんだ」

戦後73年がたったいまも、多くの仲間の遺骨は海底に眠ったままだ。3度も船が沈められながら、自分が生き延びられたのは奇跡に近い出来事だと改めて思う。「狂気に支配され、命が軽んじられた。あんな時代が二度とあってはいけない」【岡崎英遠】

徴用船員、軍人より高い死亡率

1941年に日米が開戦すると、食料や資源などを海上輸送する船が不足した。このため政府は、あらゆるものを国の統制下に置くため38年に制定された「国家総動員法」に基づき、民間商船や船員の大半を徴用し、兵隊や武器の輸送まで担わせた。

公益財団法人「日本殉職船員顕彰会」（東京都）などによると、終戦までに約2500隻の商船が沈められ、漁船なども含めると7000隻を超える民間船が失われた。約6万人の船員が犠牲となり、そのうち3割ほどは未成年だった。死亡率は推計で43%に達し、約2割とされる陸海軍の軍人と比べても、生命の危険が大きい任務だったと言える。

顕彰会の岡本永興理事は「島国である日本は、拡大した戦線を維持するのも資源を確保するのも海上輸送が生命線だった。だが、まともな護衛も付けずに、徴用船を次々と危険な海域に送り出した結果、大きな犠牲を招いた」と指摘する。【岡崎英遠】



1913年6月11日、中国へ向かう部隊に従う陸軍徴用船の漁船群

10月に明治150年式典 政府が閣議決定

日経新聞 2018/8/10 17:00

政府は10日の閣議で、2018年が明治改元から150年に当たるのを踏まえ、記念式典を10月23日に憲政記念館（東京・千代田）で開くと決定した。菅義偉官房長官は記者会見で「明治以降のわが国の歩みを振り返り、未来を切り開く契機としたい」と述べた。内閣府に10日付で準備室を設置したことも明らかにした。

女性 子ども 死体の山 佐世保空襲を経験・江島麗介さん（86）

東京新聞 2018年8月12日 朝刊

江島麗介さん（右）が亡くなった人を大勢見たというトンネルの前で取材する鈴木弘人記者＝長崎県佐世保市で



十三歳の少年は空襲のさなか、一人で家を守ろうとした。縁側から、隣町が焼けるのが見える。「うちも焼けるかも」。焼夷（しょうい）弾が落ちて火を消そうと、木の棒に縄をつけた「火たたき」をしっかりと握った。

長崎県佐世保市の廃校の教室を活用した「佐世保空襲資料室」で、私は江島麗介さん（86）の話を聞いた。佐世保は私が生まれた街。再現された「火たたき」を手にしながら「これで本当に火を消せるんですか」と聞くと、江島さんは「無理でしょうね」と笑った。

降りしきる強い雨の中、一九四五（昭和二十）年六月二

十八日の深夜から翌日未明にかけ、佐世保市の中心街が空襲に遭った。長男の江島さんは母や弟、妹ら五人を防空壕（ごう）に残して家に戻った。「俺は国を守る。おまえは家を守れ」。そう言って軍の施設に向かった父との約束を果たすために。爆撃で街は昼間のように明るかった。

幸い、自宅も家族も無事だった。だが夜が明け、おじが空襲で亡くなったと聞き、走っておじの家に向かった。途中のトンネルが、わらのむしろで隠されていた。隙間から女性と子どもの死体は何人も重なっているのが見える。「前からも後ろからも空襲の熱気が来て、逃げられなかったのだらうね」。中に入る勇氣はなく、引き返した。

数日後、近くの山で遺体を焼く手伝いをするようになった。親族らが涙ながらに遺体を運んでくる。大人が頭の方、江島さんが足首を持って遺体の山に放り投げ、よく燃えるように薪（まき）も投げた。「もちろん、気持ちが良いものではない。それでも、大人の命令だったので夢中でやりました」

梅雨の湿気で傷んだ数百もの遺体から異臭が漂う中、周囲にガソリンがまかれ、火が付けられた。底の方からじわじわ焼けていくのを見ていられず、その場を立ち去った。

「人間の最後の哀れさを感じました」



海軍の基地近くに住み、「軍国少年だった」という江島さん。緑の軍服が「格好良い」と陸軍に憧れ、中学に入学後すぐに陸軍幼年学校を受験した。不合格となり、翌年に再び受けようと考えていたところ、終戦。米軍が進駐し市役所に星条旗がはためいた。「悔しかったよ。占領されたって思った」

長い間、「思い出すことがつらい」と戦争体験を話さなかった。中学教諭を退職した六十歳ごろ、自分より上の世代が亡くなっていくことに危機感を覚え、語り部を務めるように。毎年、空襲のあった六月末に小中学校で体験を伝えている。「子どもに伝えることで、自分でも『戦争はよくない』という思いが増してきました」。時に軽やかに、笑顔で体験を語ってくれるのは、七十三年の長い月日の流れがあってこそなのだと感じた。



私が産声を上げた産婦人科の病院は、B29の編隊が飛

んだ真下だった。私が部活動でサッカーに明け暮れていた十三歳の夏、江島さんは遺体を焼く手伝いをさせられていた。多くの人が犠牲になり、復興した土地で私は生まれたのだ。

「人からされて嫌なことはしない。この単純な言葉を守りさえすれば、平和は保たれるんです」と江島さんは語る。どれだけの人が、それを守っているだろうか。ヘイトスピーチやいじめなどの問題は、この「単純な言葉」で解決できる。一人一人の小さな意識が平和をもたらす。生まれた土地で、私は初心に戻った気がした。

<佐世保空襲> 佐世保空襲犠牲者遺族会と佐世保市によると、米軍のB29爆撃機141機が1945年6月28日午後11時58分、空襲を予告する「警戒警報」が鳴る前に襲来。翌29日未明までの約2時間、爆撃した。市内の約35%にあたる1万2037戸が全焼し、1242人が犠牲となった。同市では6月29日を「佐世保空襲の日」とし、毎年追悼式を行っている。

広島で平和の誓い 天皇陛下「信念養う」 元東宮侍従、日誌に書き残し

東京新聞 2018年8月12日 朝刊

栄木忠常元東宮侍従が残した日誌



皇太子時代の天皇陛下の側近だった人物が、太平洋戦争終結前後の混乱期、陛下の教育について周囲が検討する様子を日誌に書き残していたことが分かった。本紙が入手した日誌には、陛下が原爆投下から四年後の広島で語った、平和希求の原点と言える言葉も記されている。（小松田健一）

日誌を書いたのは、栄木（さかき）忠常さん（一九〇九～九五年）。東京帝国大卒業後、宮内省や学習院の事務官などで皇室にかかわり、終戦直前の四五年八月十日、陛下を支える東宮職の発足と同時に東宮侍従に就任し、五〇年三月まで務めた。

本紙は栄木さんの長男で学習院初等科から高等科まで陛下の学友だった栄木和男さん（84）から、終戦前後の日誌の一部の提供を受けた。日々の業務や陛下の動静、側近たちの発言などが書き残されていた。

陛下は学習院高等科一年だった四九年四月六日、広島市を訪問。日誌には「人類が再びこの惨劇を繰り返さないよう、固い信念と覚悟を養いたい」「私の責任をよく自覚して

勉強と修養に努力していく」などと、地元青少年の前で述べたあいさつの要旨が書き残されている。公式の場で話すのは初めてだった。

終戦直後、当時皇太子だった天皇陛下。右は東宮侍従を務めていた栄木忠常さん＝共同通信社「平成の皇室」より（1947年撮影）



終戦前後の様子もある。四五年八月十五日の昭和天皇の「玉音放送」は、疎開先の栃木県・奥日光で陛下と同じ部屋で聞いたといい、側近らが涙ながらに放送を聞く様子を書いた。

二十四日には、今後の陛下の住まいと教育の地に長野県・松代（現・長野市）が候補に挙がる。松代は戦中、政府中枢の移転を想定した松代大本営が建設されていた。忠常さんは「将来日本を興すべき青少年の教育場所としては健全なる田舎の剛健なる還境（原文のまま）に限る」「殿下の御教育地として適当」などと賛同意見を記した。

実際には陛下は十一月、奥日光から帰京し、四六年四月、現在の東京都小金井市に移転していた学習院中等科へ進学した。

四六年一月十七日には、四、五年後に英国と米国へ留学する構想が記された。実現しなかったが、陛下は五三年に英国女王エリザベス二世の戴冠式へ出席、その機会に欧米十四カ国を訪問し、見聞を広めた。

◆人物像知る手掛かり

<瀬畑源（はじめ）・長野県短大准教授（日本現代史）の話> 今の天皇は側近の日記などが複数残る昭和天皇と異なり、文書となった一次史料が少ない。歴史的に重要な新事実は見当たらないが、当時皇太子だった天皇の周辺がどのような思いで教育に携わったのかや、天皇の人物像を知る手掛かりとなる。混乱期に前例がない中、自分たちが何とかしなければという職務に対する重みも感じる。

<20代記者が受け継ぐ戦争 戦後73年> 満州敗走 母子救えず

東京新聞 2018年8月11日 朝刊 本紙は栄木さんの長男で学習院初等科から高等科まで陛下の学友だった栄木和男さん（84）から、終戦前後の日記の一部の提供を受けた。日々の業務や陛下の動静、側近たちの発言などが書き残されていた。

陛下は学習院高等科一年だった四九年四月六日、広島市を訪問。日記には「人類が再びこの惨劇を繰り返さないよう、固い信念と覚悟を養いたい」「私の責任をよく自覚して勉強と修養に努力していく」などと、地元青少年の前で述べたあいさつの要旨が書き残されている。公式の場で話すのは初めてだった。

大島記者（左）に自身の戦争体験を話す稲川寅男さん＝東京都江戸川区で



「円匙（えんぴ）でタコツボを掘ってね。ここが自分の死に場所になると思ったよ」

東京都江戸川区の稲川寅男さん（94）の自宅を訪れた私は、聞き慣れない言葉に少し戸惑った。入社四年目で初めてとなる戦争体験の取材。スコップ（円匙）で縦穴（タコツボ）を掘り、ソ連軍との戦闘を迎えた七十三年前の夏の体験に、じっと耳を傾けた。

一九四五（昭和二十）年八月九日、ソ連軍が満州（現・中国東北部）に侵攻。関東軍の歩兵第三七〇連隊に所属していた稲川さんは、牡丹江近郊で日本人開拓民の保護を命じられた。

十三日昼、縦穴に身を潜める中、ソ連軍の戦車がごう音と共に街道を進んできた。武器・弾薬は欠乏し、最新鋭の戦車に対抗できる状況にない。仲間たちが縦穴から飛び出し、爆弾を抱えて戦車に飛び込む肉弾攻撃を仕掛けたが、厚い鉄板に覆われた戦車が一瞬、宙に浮いただけだった。

十四日は、遮るものがない草原での銃撃戦。「ヒュン、ヒュン」。銃弾が顔の近くをかすめ、兵士たちが次々と倒れた。「稲川、本部に上がれ!」。丘の上にある本部との連絡係だった稲川さんは、上官の命令で伍長と交代して前線を離れた。翌十五日まで戦闘が続いた後、部隊は撤退。日本がポツダム宣言を受諾し、無条件降伏したことも知らなかった。伍長はその後、戦死したという。



死と隣り合わせの経験は、平成生まれの私には想像がで

きない世界だった。

学校を出て会社員をしていた稲川さんは二十歳を迎えた四三年に徴兵され、ソ連との国境警備の部隊に配属された。

「お国のために戦う自負があった」。だが、実際の戦闘では撤退を余儀なくされ、山の中を逃げ回った。

「前線で死んでいれば、こんなつらい思いをしなくて良かったのに、と悔やんでね」。やや早口で話す稲川さんがある場面を思い出した時、重い口調に変わった。

「助けて」。夜に山中を移動していると、ぼろぼろの和服を着た開拓民の女性と遭遇した。衰弱しきった様子で赤ん坊を抱き、かぼそい声で懇願された。「子どもだけでも連れていって」。だが、ソ連軍の追撃におびえ、食料も枯渇した稲川さんは数十人の兵士とともに立ち去った。

開拓民保護の命令、国のために戦う自負…。実際は自分の命を守ることしかできなかった。しばしの沈黙の後、稲川さんは続けた。「罪のない市民や下っ端の兵士が犠牲になる戦争は、やっぱりおかしい」

九月末にソ連軍に捕まり十一月にシベリアの捕虜収容所に連行された。二年近く労働を強要され、四七年九月、引き揚げ船で京都府の舞鶴港に戻った。帰還後、三つ上の兄の戦死を知らされ、無念さが込み上げた。



取材の後、稲川さんに駅まで見送ってもらった。日差しが照り付ける中、「毎年夏になると、からっとした暑さだった満州を思い出すよ」とつぶやいた。

隣を歩きながら考えた。七十三年前の戦地で私は生き残れただろうか。女性と赤ちゃんを助けただろうか。個人の力量や思いなどを超えた戦場の残酷さ。想像すら難しいが、忘れてはいけない過去がある。「生きて帰れたことは運が良かった。平和に幸せに暮らせることがありがたい」。そう話す稲川さんの思いを、伝えていくことはできる。(大島宏一郎(26歳) 整理部)

<ソ連の対日参戦> 1945年8月8日にソ連が日ソ中立条約を破棄して宣戦布告し、9日に満州(現・中国東北部)に侵攻。関東軍の大半が敗走した。当時の満州には約155万人の日本人が暮らしていたが、戦闘や病死、餓死などで約24万人が犠牲になったとされる。



平成最後の夏。時代が移り変われば、昭和はさらに遠ざかっていく。それでも、上書きしてはいけない歴史がある。今年も若手記者たちが戦争の体験者に会い、悩み、考えた。

◆ご意見・ご感想 お寄せください

メールは shakai@tokyo-np.co.jp。手紙は〒100 8505 (住所不要) 東京新聞社会部。ファクスは03 (3595) 6919。